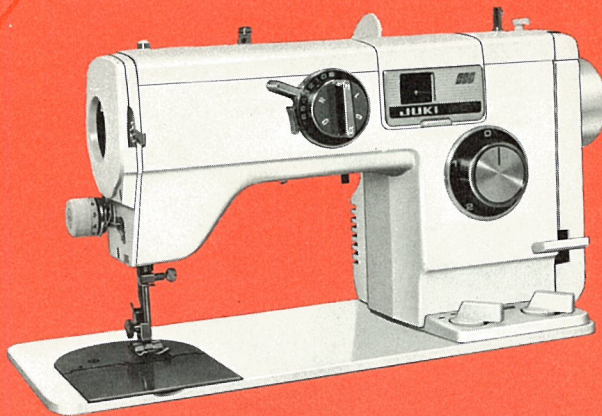


シグマキミシン

HZD-689

スーパーオートジグザグミシン

使用説明書



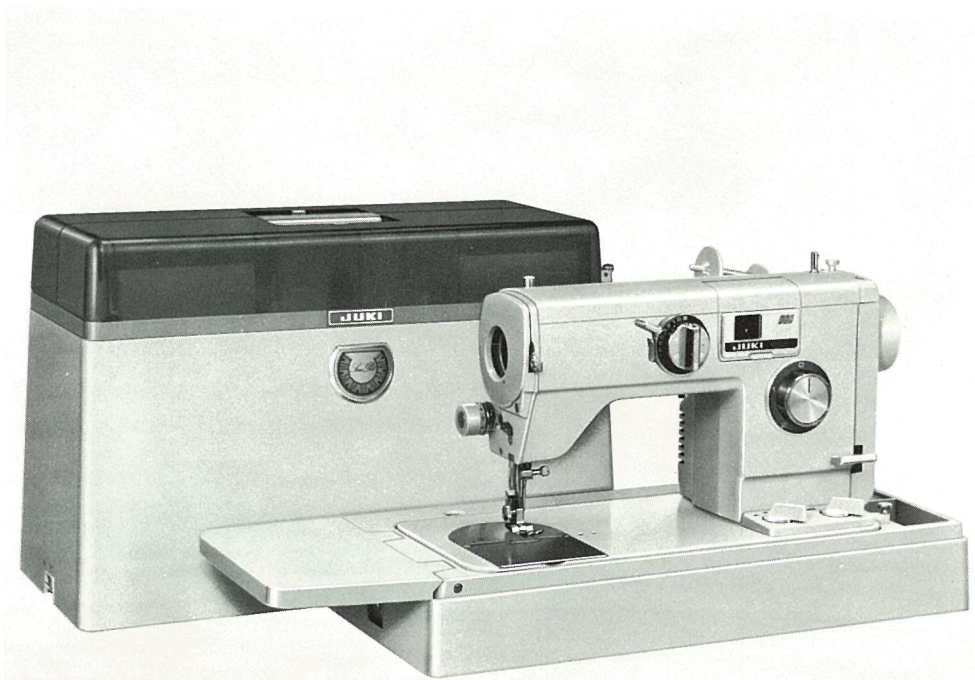
東京重機工業株式会社

ジューキスーパーオートジグザグミシンHZD-689型を

お買い上げいただきまして、ありがとうございました

今日からあなたのご愛機となりましたこのジグザグミシンは、直線縫はもちろんのこと、カム交換による自動模様縫、ボタン穴かがり縫、チェーンステッチ、美しい刺しゅう、アップリケ、ボタン付けなどいろいろ縫い方が簡単に出来ますから、あなたやご家族の楽しいおしやれ計画がご自身で存分に演出ができます。

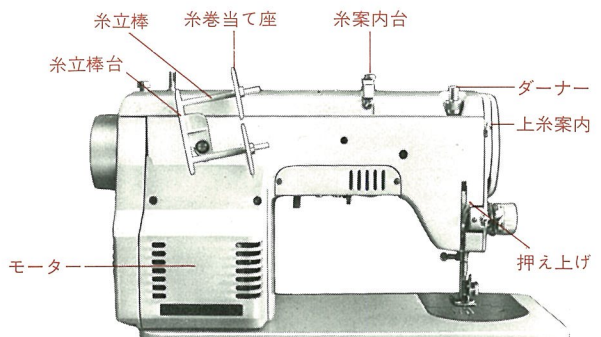
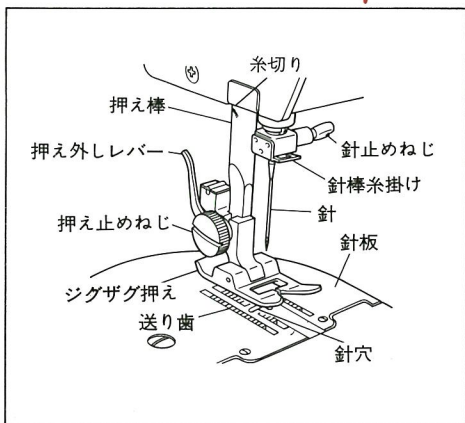
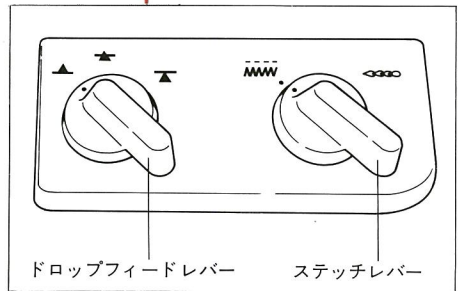
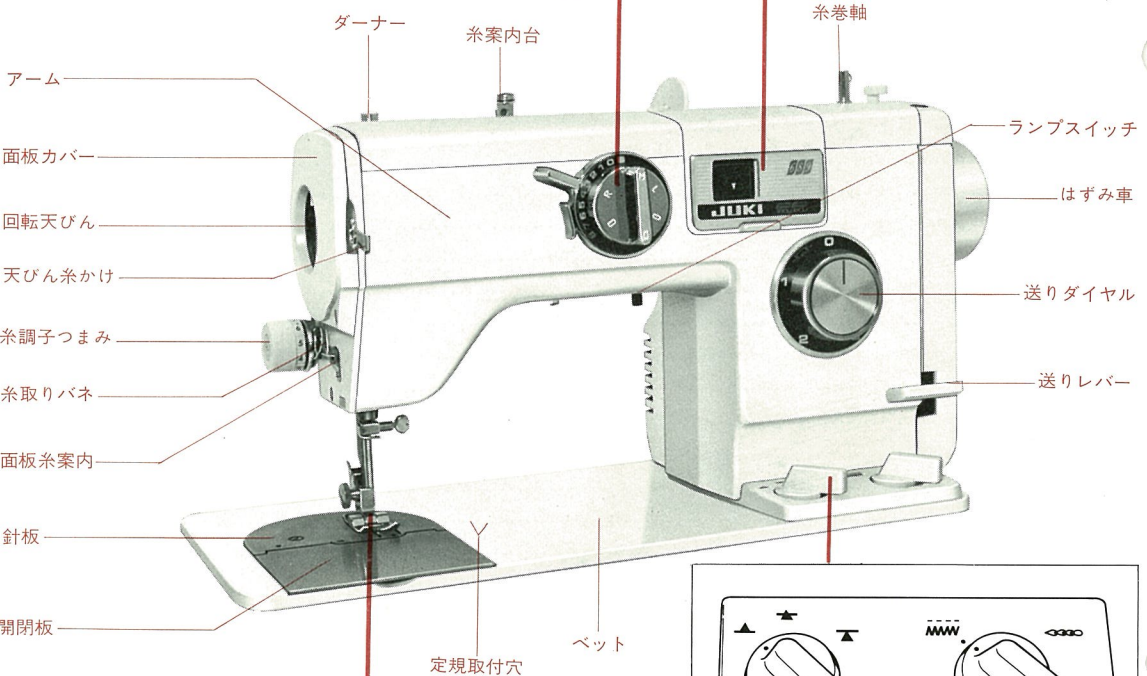
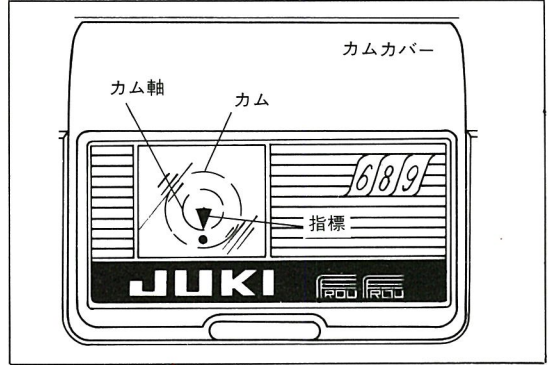
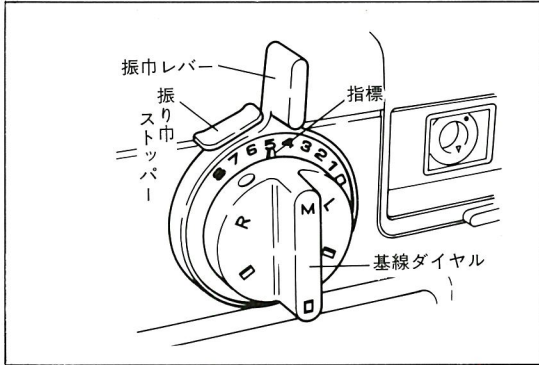
こうした楽しさも、ミシンの正しい取り扱い方が基礎となりますので、どうぞこの説明書をよくお読みになって、その機能を十分に生かしていただき、末永くご愛用下さいますようお願い申し上げます。



目次



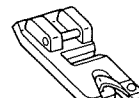
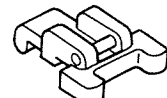
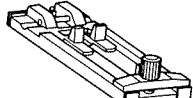
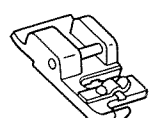


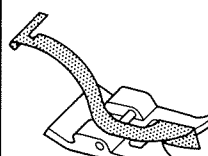
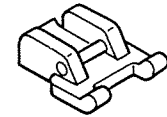
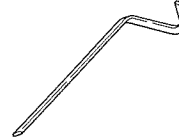
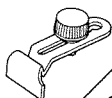
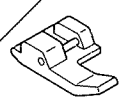
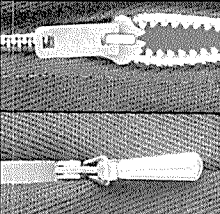
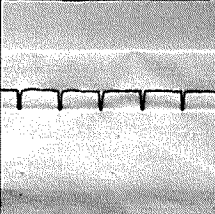
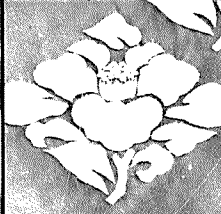
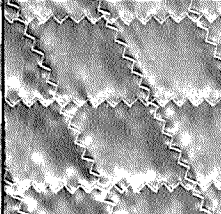
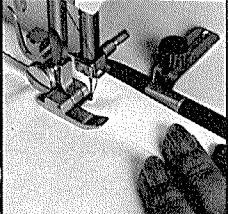
ミシン頭部の主な名称	1
付属品の名称	2
ポータブルケースの使い方	3
コードの接続	4
コントローラーの使い方	4
ミシンランプについて	4
針について	5
ボビンケースの出し入れ	6
糸立棒装置の使い方	7
糸たるみ防止装置	7
下糸の巻き方	8
ボビンケースにボビンの入れ方	9
押えの交換方法	9
上糸のかけ方	10
縫い目の調節とかえし縫い	11
ステッチレバーについて	12
ダーナー（押え調節器）について	12
直線縫い	13
スーパーチェーンステッチ	17
ジグザグ縫い	22
いろいろな縫い方	26
自動模様の縫い方	27
二本針縫い	29
ボタン穴かがり	30
ボタン付け	32
ファスナー付け	33
キルティング	34
三つ巻	35
エラスチック縫い	36
ブラインドステッチ（めくら縫い）	37
縁飾り	38
アップリケ	39
ひもつけ（コード刺しゅう）	40
刺しゅう	41
ネーム刺しゅう	42
裁ち目かがり	43
定規（ステッチ定規）の使い方	44
糸ほどき（リップパー）の使い方	44
ニットの縫製について	45
ミシンの手入れ	47
注油	48
頭部の取りつけ方	49
コードのつなぎ方	49
故障の原因と修理	51

ミシン頭部の主な名称

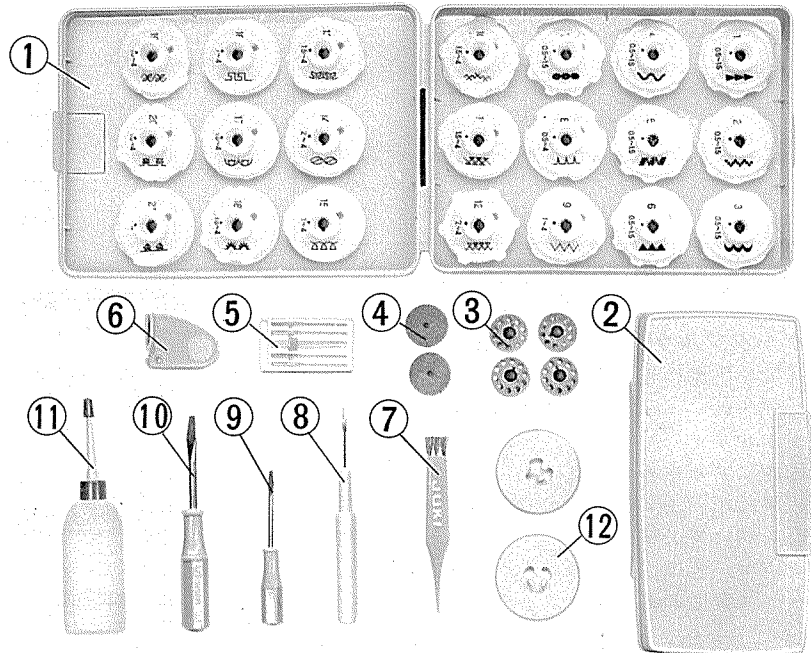


附属品の名称

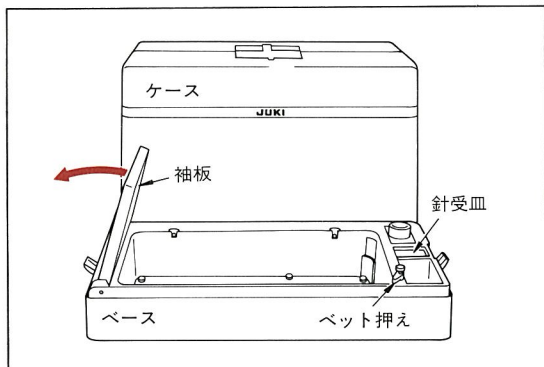
★ジグザグ押えはミシンに取りつけてあります。

直線縫い押え  裁ち目かがり押え 	三つ巻押え 	ボタンつけ押え 	ボタン穴かがり押え 	ひもつけ押え 
ファスナーつけ押え  コンシール ファスナーつけ押え 	ブラインドステッチ押え 	刺しゅう押え 	棒定規 	定規  段付き押え 
				

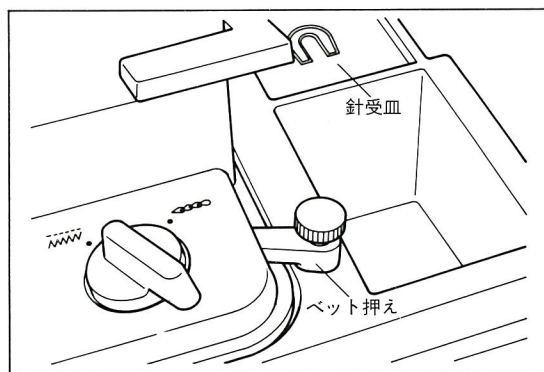
- ① カムケース
(模様カム21個入り)
- ② 附属品箱
- ③ ボビン(4個)
- ④ 糸立棒フェルト
(2個)
- ⑤ 針ケース
針 3本
二本針…1組
ニット針 1本
- ⑥ 糸通し器
- ⑦ 掃除用ブラシ
- ⑧ 糸ほどき(リッパー)
- ⑨ ドライバー(小)
- ⑩ ドライバー(中)
- ⑪ 油さし
- ⑫ 糸巻き当て座(2個)



ポータブルケースの使い方



袖板を開きます



ベット押えで固定します



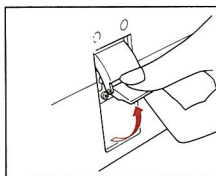
転倒防止体を引き出します

ポータブルケースのしまい方

1. 袖板を内側に起します。
2. ケースはジューキマークのある方を手前にしてかぶせます。
3. 両側にある止め金具は確実に止めます。
4. 附属品箱、各種の糸コマなどは、ケースの上ぶたを開いて、部品入れの中にして下さい。
5. カムケースは、部品入れをケースから取り外し、ケース側面の部分にしまってください。

ポータブルケースの使い方

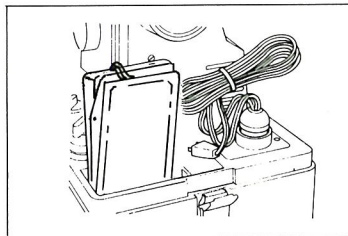
1. ケースの止め金具をはずしません。ケースは水平に持って真上に上げて下さい。
2. ベース右側のベット押えを手前にして、ベースについている袖板を水平に倒します。



3. ベースの右にあるベット押えの止めネジを締めて、ミシンを固定してからご使用下さい。

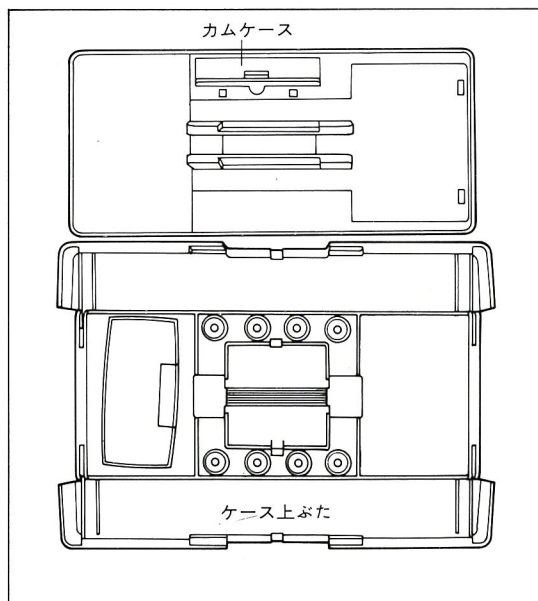
★ベースの右側中央の針受皿は針などを置きます。マグネットで外にこぼれないようにしてあります。

★コントローラーは右図のようにベース右側にしまえます。



4. コードをつなぐときあるいは注油、そうじ等の際には、ベース後側の底部にある転倒防止体を引き出して下さい。

★「頭部の取り付け方」及び「コードのつなぎ方」は、この説明書の48ページをごらん下さい。

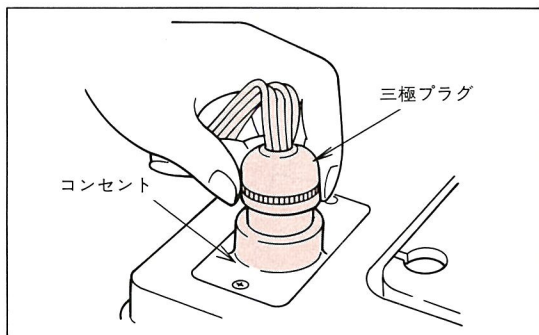


附属品はこのように入れます

コードの接続

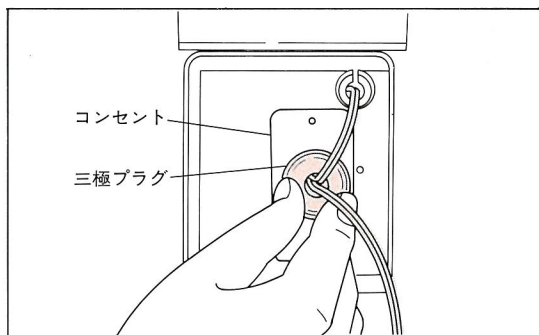
★ミシンを使用しない時は、必ず電源さし込みプラグをぬいて下さい。

ポータブルケースの場合



ベースの表側にあるコンセントに三極プラグ（丸いプラグ）をさし込みます。もう1つの電源プラグは電源にさし込みます。

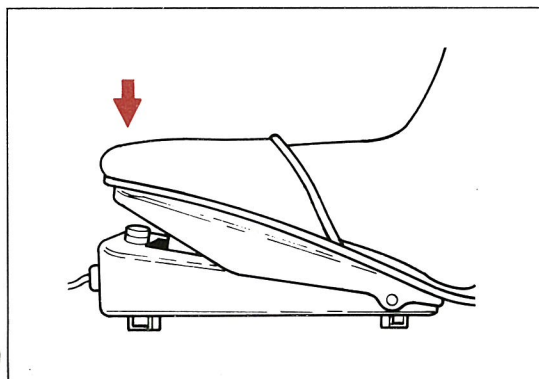
電動キャビネットの場合



外に出た三極プラグを、キャビネットの右外側にあるコンセントにさし込みます。もう1つの電源プラグは、電源にさし込んで下さい。

★ミシンを使用しないときは、コードを丸めてコードボックスに入れておきます。

コントローラーの使い方



コントローラーの踏み方

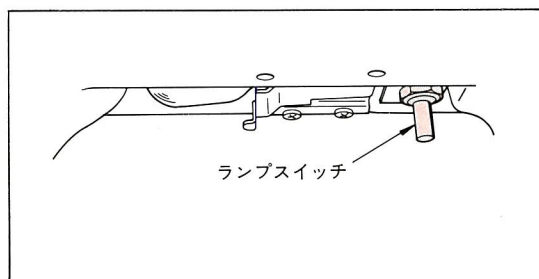
ジューキが新しく開発した電子コントロールモーターはすぐれた性能をもっています。

- ①縫い始めから速度が安定しています。
- ②低速縫が楽にできます。
- ③コントローラーがあつくなりません。

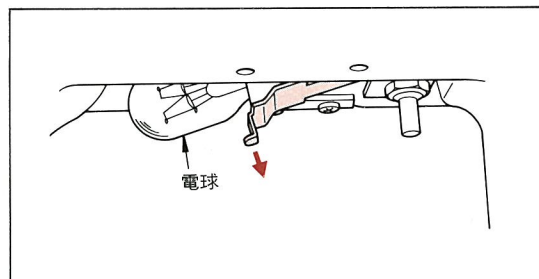
このために仕事が非常にやりやすく、特に刺しゅう縫いが簡単にできるので非常に便利です。

1. コントローラーに、図のように足をかけます。
2. コントローラーを強く（深く）踏めば早く回転し、弱く（浅く）踏めば遅く回転します。踏み加減でミシンの縫速度を調節して下さい。

ミシンランプについて



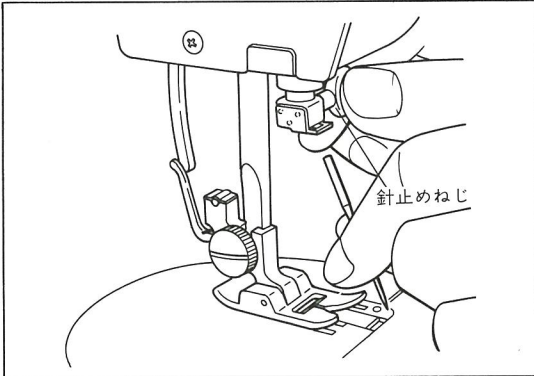
1. ランプスイッチは、押しボタン式ですから、押すだけでミシンランプは点滅します。



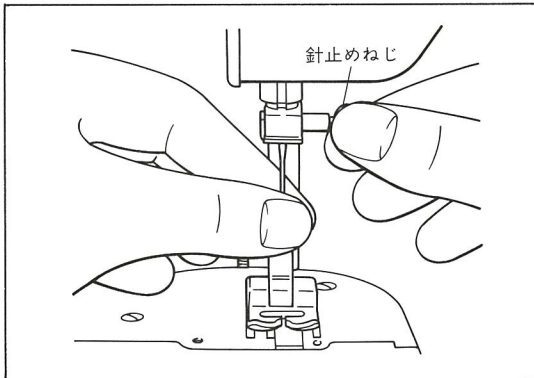
2. 電球を取り換えるときは、つまみを下に引けば、簡単に電球を取り換えられます。電球を取りつけるときはよくねじ込んで下さい。

針について

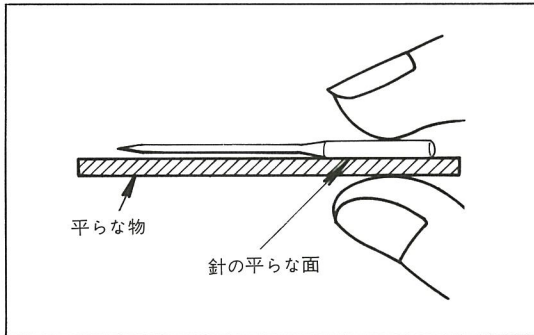
④針の取り付け方



針止めねじをゆるめる



針を取りつける



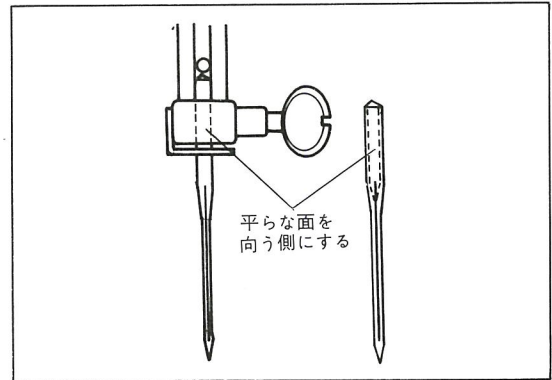
平らな面に当ててしらべる

④針と糸と布地の関係

針や糸は、お縫いになる布地に合ったものを選んで下さい。布地に対して針や糸の太さが合っていないと、糸切れや目飛び、針折れの原因になります。

	針	糸	布地
極薄地	# 9	100番 絹糸、化繊糸	薄モスリン、サテン、レース、デシン
薄地	# 11	100～80番	ポプリン、薄ウール、ブロード、キャラコ、カナキン
普通地	# 14	60～50番	サージ、ネル、カシミヤ、ドスキン、ポーラ
厚地	# 16	40～30番	デニム、オーバー地、コールテン、かつらぎ
特殊	ニット針 # 14	60～50番	ジャージ、ニット、トリコット

1. ハズミ車を手前に回して、針棒を最高部に上げ
2. 針止めねじをゆるめ

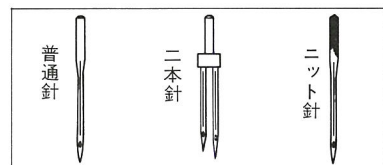


3. 針の平らな面をむこう側に向けて、針棒のみぞの小ねじに突き当たるまでいっぱいにし込み。
4. 針止めねじをドライバーで締めつけて下さい。
⚠針止めねじを固く締めないと、縫製中に針が抜れたり、折れたりします。
5. ハズミ車を手で回して、針の先が針穴の中心におりるかしらべて下さい。
★二本針の取り付け方は、29ページの「二本針縫い」の項をごらん下さい。

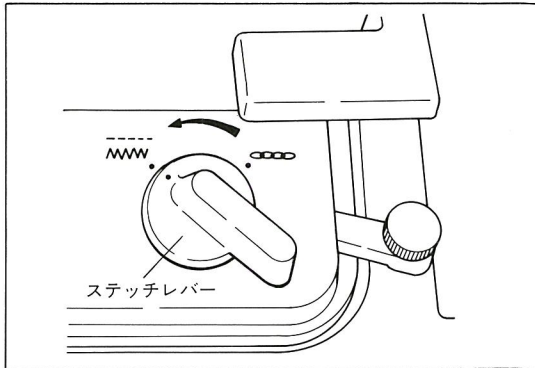
④針のしらべ方

針が曲っていたり、針先が鈍っていると、目飛びや針折れの原因になりますから、取りつける前にならずしらべて下さい。

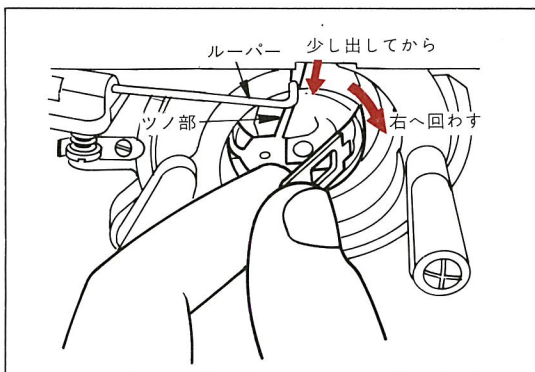
針の平らな面を、平らな物に当ててすかして見ます。良い針は、すき間が針先まで平均に見えます。



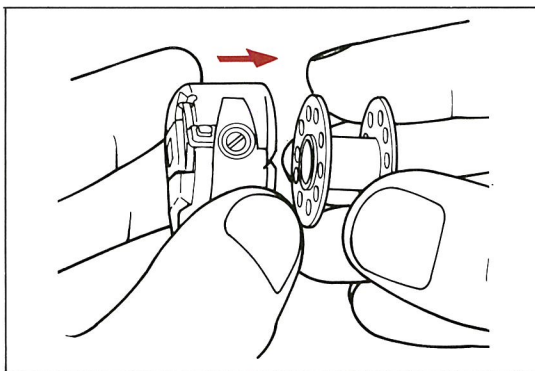
ボビンケースの出し入れ



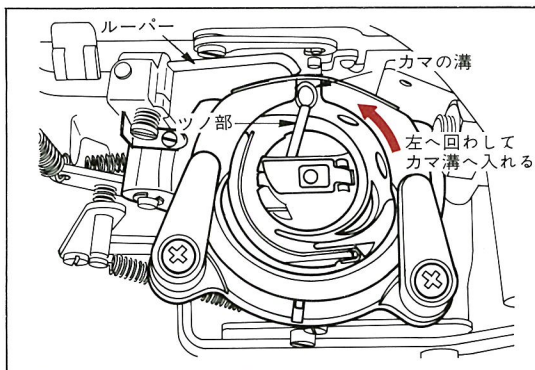
ステッチレバーを本縫に合わせる



つまみを起こして取り出します




つまみを閉じて、ボビンケースを下に向ける



ツノ部をカマ溝に合わせてさし込む

⊕ボビンケースの取り出し方

1. スーパーチェーンステッチ縫いをしている場合には、ステッチレバーを本縫（) に合わせて下さい。
- ⊗ ボビンケースを取り出す際に、チェーンステッチ用のルーパーに引掛けないように注意して下さい。

2. ハズミ車を手で回して、針を最高の位置に上げて下さい。
3. 開閉板を上を開いて、キャビネットの場合はテーブルの下から、ポータブルケースの場合は開閉板を開き、開いた穴から手を入れてボビンケースのつまみを起こして、少し手前に引き出したら右に回してツノ部とルーパーが当たらないようにして取り出して下さい。

⊕ボビンの取り出し方

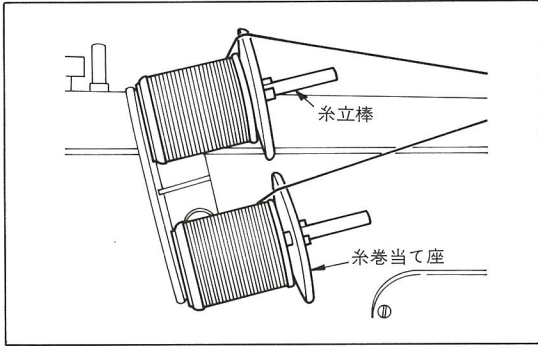
ボビンケースからボビンを取り出すには、つまみを閉じてボビンケースを下に向ければ、ボビンは簡単に取り出せます。

- ★つまみを開かずに持てば、ボビンは落ちません。

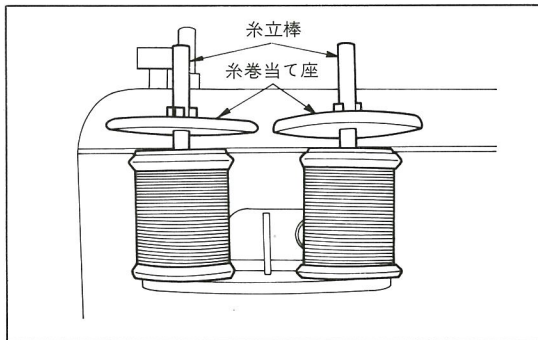
⊕ボビンケースの入れ方

1. ボビンケースを取り出すときと同様に、針を最高の位置に上げ、
2. ボビンケースのつまみを開いて持ち
3. ボビンケースのツノ部がルーパーに当たらないように、右にかたむけてカマの受軸にボビンケースを入れ、カマの上面をすべらせながら左へ回わしてカマ溝に入るようにし、カマの受軸いっばいに差し込んで、ボビンケースのつまみを閉じて下さい。

糸立棒装置の使い方

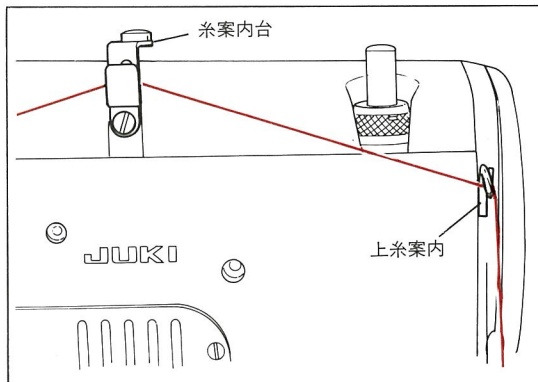


糸巻量の多いとき

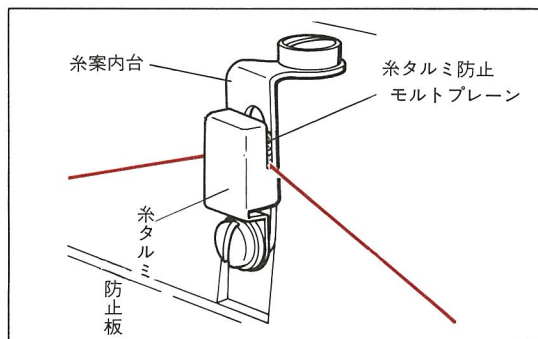


糸巻量の少いとき、糸コマと糸巻当て座の間にすき間をつくる

糸たるみ防止装置



糸がタルム時は、糸タルミ防止板に糸を掛ける



糸を糸タルミ防止モルトプレーンに接触させる

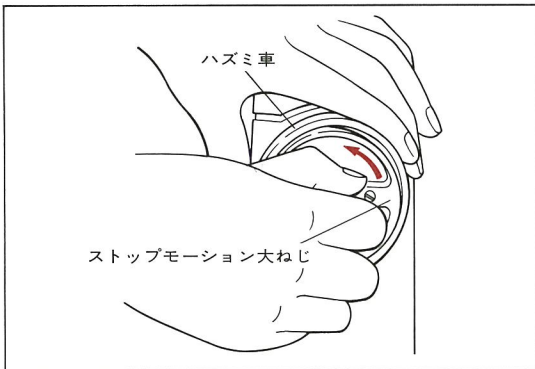
このミシンについている糸立棒は、糸のからみを防ぐために、特別に工夫された、ジューキ独自のものです。糸立棒は倒した状態でも、立てた状態でも使用することができます。

1. 糸コマの糸巻量が普通、あるいは多い場合には糸巻当て座を当てて、糸立棒を倒した状態でお使い下さい。
2. 糸コマの糸巻量が少い場合には、糸立棒を立てた状態でお使い下さい。この場合には、糸コマと糸巻当て座との間に少しすきまをあけて下さい。

1. 上糸が使用時にタルミすぎる場合は、上糸案内台にセットされた糸タルミ防止板に糸をかけてから上糸案内に糸を通して下さい。

★糸タルミ防止板に糸をかけるときは、図のように、糸が糸タルミ防止モルトプレーンに接触するようにします。

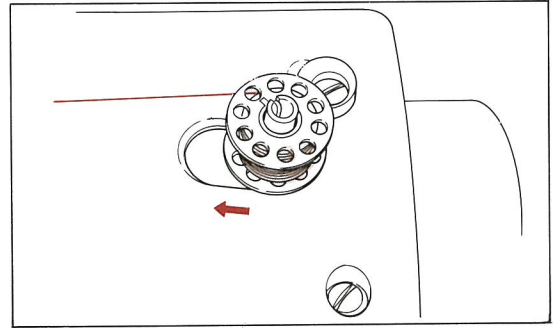
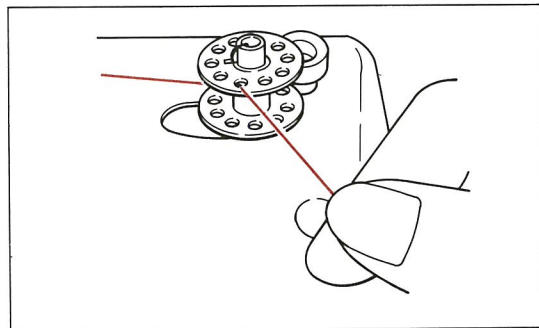
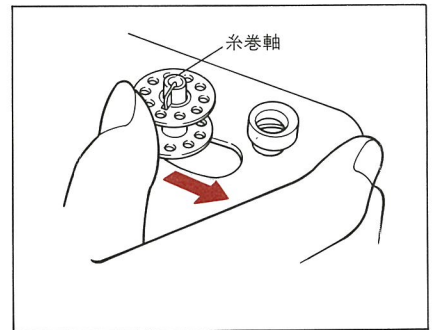
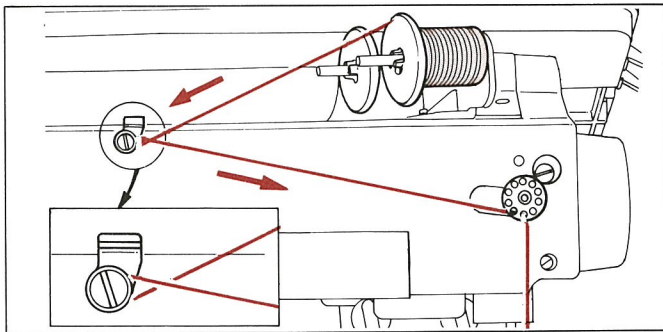
下糸の巻き方



1. ハズミ車を左手で押え、右手でストップモーション大ねじを手前に回わしてゆるめます。

2. 糸立棒を倒し、糸コマをさし込み、糸を引き出して図のように通します。

3. ボビンを糸巻軸にさし込み、糸巻軸をハズミ車側におしつけます。



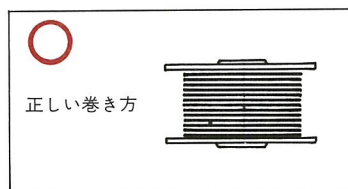
4. 糸をボビンの小穴に内側から通し、5 cm位引き出します。

5. 糸の端を持って、ハズミ車を回します。2～3段巻けましたら、糸を引っ張って切り、そのまま糸を巻きます。

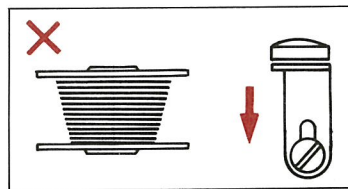
6. 糸が巻き終わりますと、ボビンは自動的に止まりますから左側に糸巻軸をもどして下さい。

7. ボビンを外し、ストップモーション大ねじを締めつけて下さい。

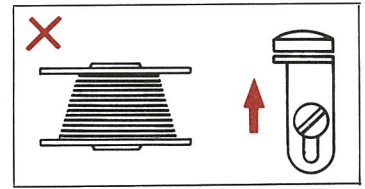
⊕正しい巻き方



ボビンには、糸が平均に巻かれるように調節されています。もし糸が一方に片寄って巻けるようなときには、糸案内台の位置を調節します。

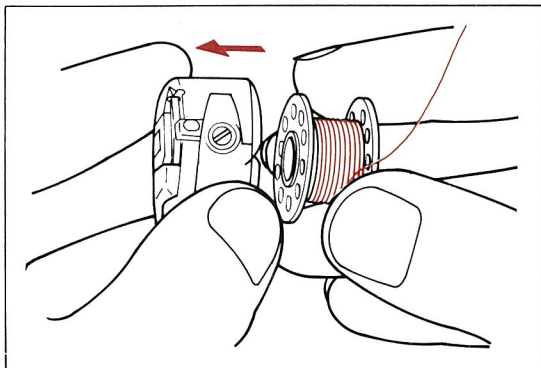


★ボビンの上側に片寄るときは、
1. 糸案内台止めねじをゆるめ、
2. 糸案内台を少し下げて、
3. 止めねじを締めつけます。

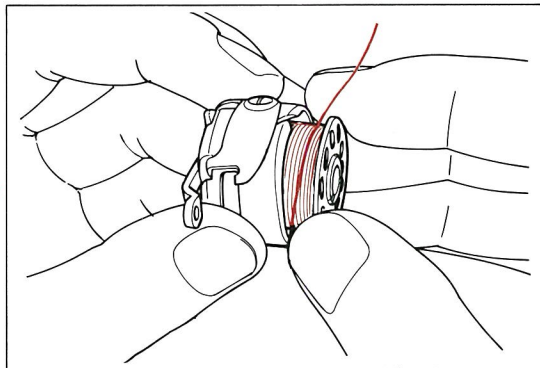


★ボビンの下側に片寄るときは、
1. 糸案内台止めねじをゆるめ、
2. 糸案内台を少し上げて、
3. 止めねじを締めつけます。

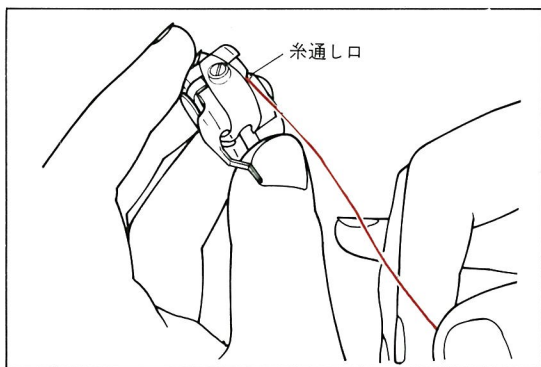
ボビンケースにボビンの入れ方



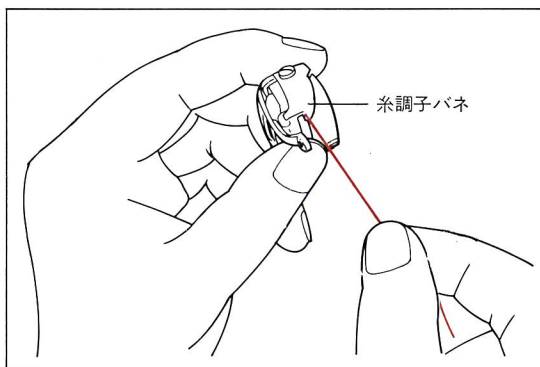
1.糸の方向が図のようになるように、ボビンケースとボビンを持って、



2.ボビンをボビンケースに入れます。



3.糸をボビンケースの糸通し口に通し。



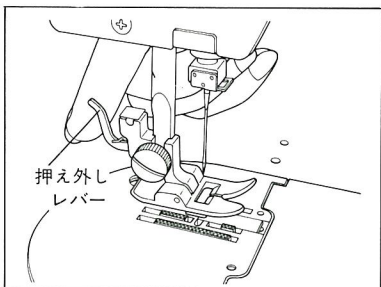
4.そのまま糸を引くと、糸調子バネの下を通過して糸口へ糸が引き出されます。

5.ボビンをボビンケースに入れたら、ツマミを開いて持てば、ボビンは落ちません。

★ボビンケースの取り出し方及び入れ方については、「ボビンケースの出し入れ」の項（5頁）をごらん下さい。特にチェーンステッチ縫いをしている場合には、ステッチレバーを必ず本縫（**MW**）に合わせてから、ボビンケースの出し入れをして下さい。

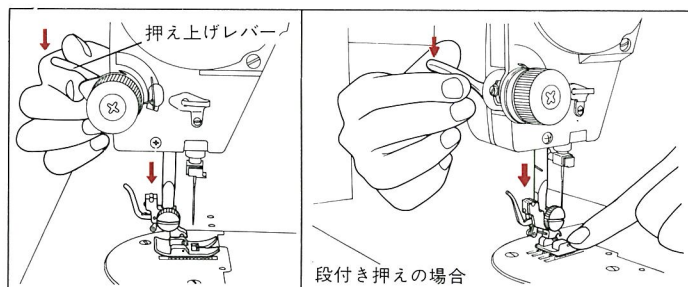
押えの交換方法

押えの外し方



- 1.押え上げで、押えを上げます。
- 2.押え外しレバーを上を押すと、押えは外れます。

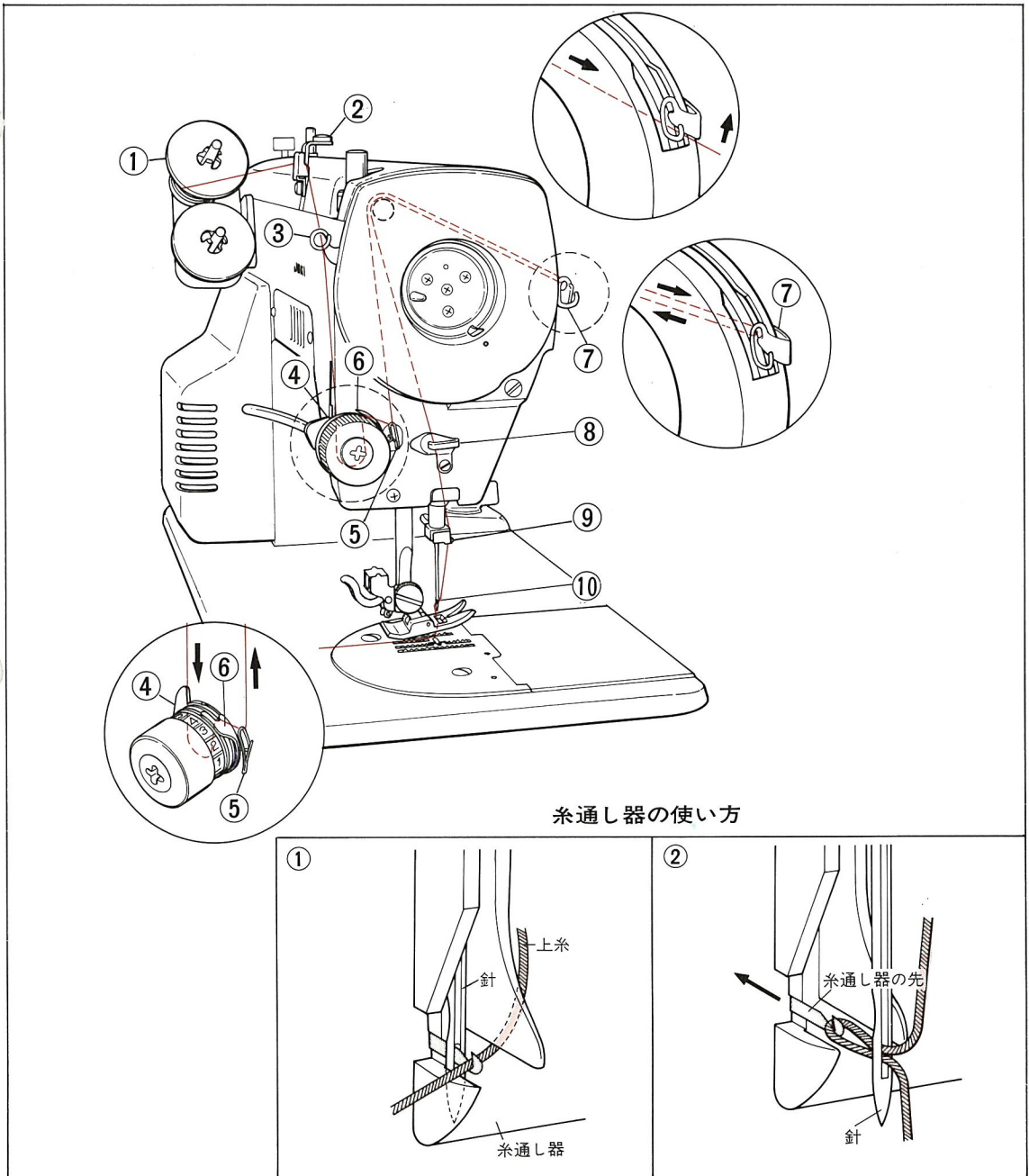
押えの取り付け方



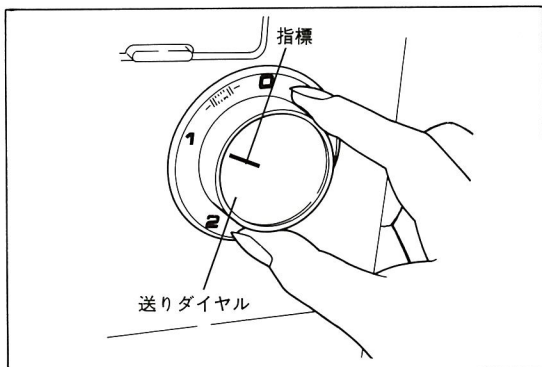
- 1.取りつける押えを、押え棒の下におきます。
 - 2.押え上げレバーを、下に下げると押えは取り付けられます。
- ★段付き押えの場合は、押えが倒れないように軽く指で支えて下さい。

上糸のかけ方

1. 押えを上げておきます。
2. ハズミ車を回わして針を最高の位置にあげます。
3. 図の番号順に糸を通します。
4. 針に糸を通す時は糸通し器を使います。
 - ①糸通し器の先を、向う側から手前へ針穴に通し
 - ②先たんに上糸を引っかけます。
 - ③そのまま向う側へ引けば、糸は針穴を通して引き出されます。
5. 針穴に通した糸は、15センチ位引き出しておきます。



縫い目の調節とかえし縫い

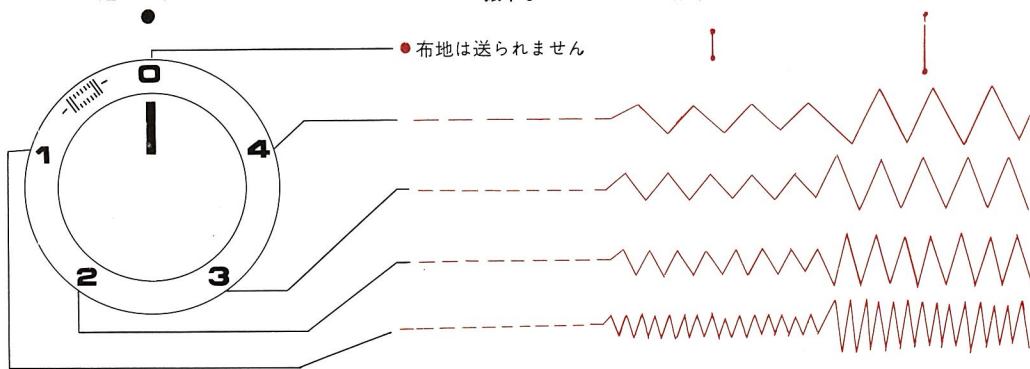


希望する縫い目にダイヤルを合わせる
送りダイヤル

振巾 0

振巾 4

振巾 8



縫い目長さ

縫い目長さは、送りダイヤルを回せば自由
に変えられます。

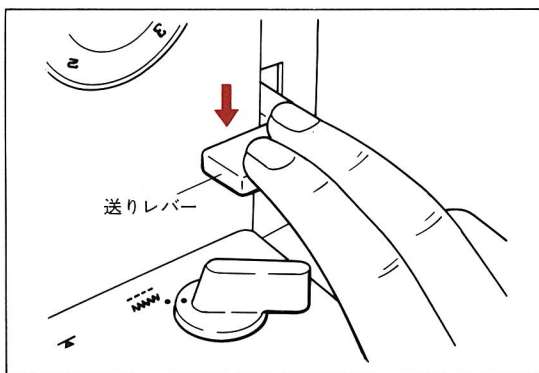
1. 送りダイヤルの指標を希望する縫い目に合わせて下さい。
2. 数字は縫い目の長さを、ミリメートルであらわしています。
3. 数字が大きいほど縫い目は長く、小さくなるほど短くなります。

縫い目が“0”のときは、布を送りません。

かえし縫い

送りレバーを下に止まるまで押しますと、送り(縫い方向)が逆になりかえし縫いができます。
レバーを押している間は、かえし縫いができます。

手をはなせばレバーはもとにもどり、普通縫いになります。

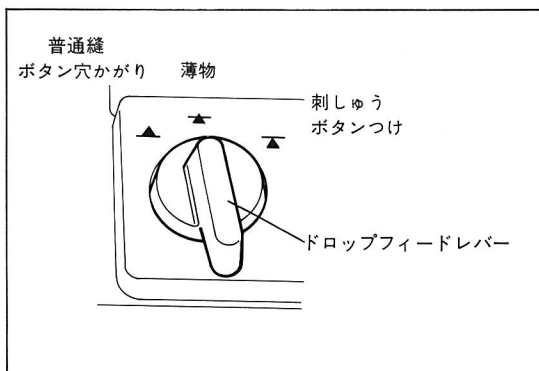


送りレバーを押せば、かえし縫いができる

ドロップフィードレバーの使い方

縫う物の厚さによって送りの高さを調節します。薄い物は送りの高さを低く厚い物は高く上げて縫います。

押えを上げてから、ドロップフィードレバーを動かして下さい。

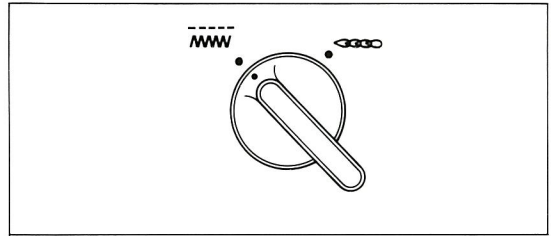


ドロップフィードレバーの使い方

ステッチレバーについて



⊕本縫（直線縫い及びジグザグ縫い）

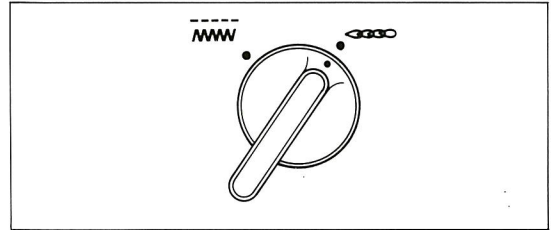
ステッチレバーを()に合わせて下さい。



本 縫

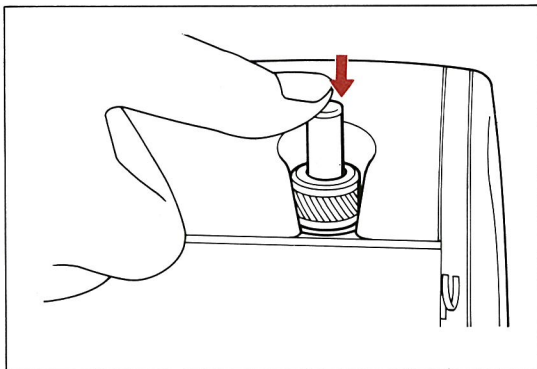
⊕スーパーチェーンステッチ(チェーンステッチおよびロックチェーンステッチ)

ステッチレバーを()に合わせて下さい。
レバーを()に合わすだけでスーパーチェーンステッチ縫いの準備ができます。

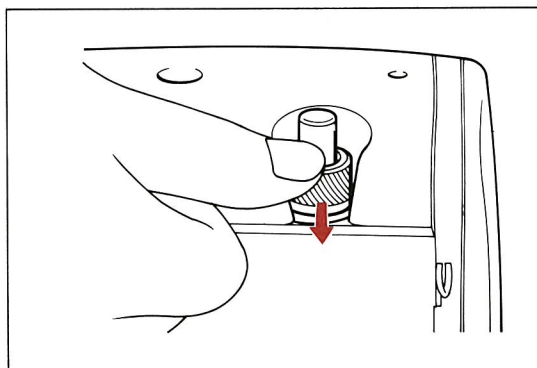


スーパーチェーンステッチ

ダーナー(押え調節器)について



ダーナーを押す

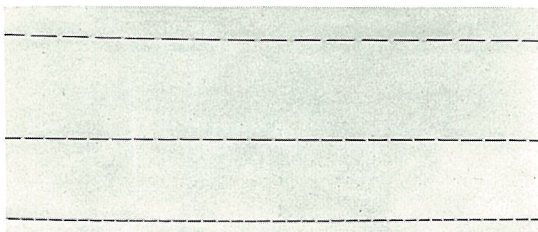


ダーナーをもとにもどす

- 縫う物によって送りを上げ下げすると共にダーナーの押えの強さも加減します。
- ダーナーを押えるほど布を押える力が強くなり、高くなるほど弱くなります。普通縫いの場合には中ほどまで押して、縫って下さい。
また、ボタン穴かがりの時は中ほどよりやや下まで押します。
- ダーナーをもとにもどす時は、図のように外側を押しますと、もどります。

直線縫い

(1)縫いの準備

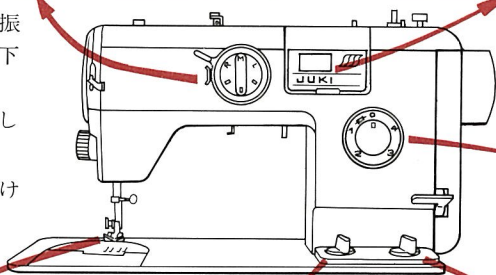


直線縫いは縫い方の基本です。カーテン・洋服・ズボン・子供服などに必ず使います。一本針の他に二本針の直線縫もできます。(二本針縫いについては“二本針縫い”の部分をごらん下さい。)

振り巾レバー：S
 ★基線ダイヤルと振り巾レバーの指標は共通になっています。
 基線ダイヤル：M

模様カム：No. 0

- ★二本針直線縫いの場合には振り巾レバーは0に合わせて下さい。
 “二本針縫い”の項を参照して下さい。
- ★段縫いをするときは、段付き押えを使用します。



送りダイヤル：1～4

直線縫い押え

段付き押え

ドロップフィードレバー：{ 薄物.....▲ 普通.....▲ }
 ステッチレバー：■■■■

縫い始める前に、ハズミ車を手で一回転させて針がきちんと針板や押えの針穴に合っているかを確認して下さい。針板や押えに針がふれていると針が曲ったり、折れたりしますからご注意下さい。

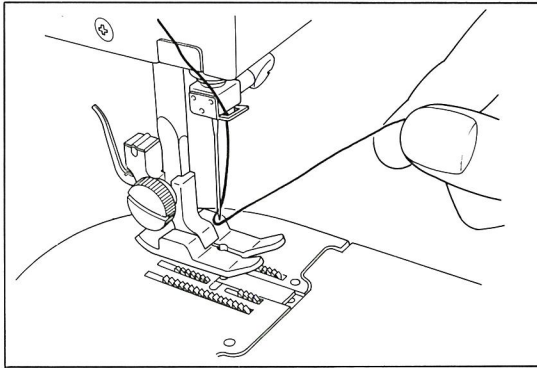
薄物を縫う場合

荒い目で縫いますと、糸の締りで布地にシワがよったりしますから、送りダイヤルの目盛は2以下で縫って下さい。極く薄い布地の場合には、薄紙と一緒に縫って、縫い終わりましたら紙を破り取るようにすれば、布地を無理することなく縫うことができます。

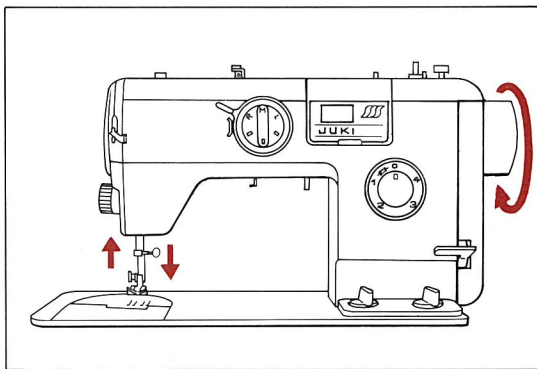
段縫いをする場合

デニムやコールテンなど厚手の布地の端を折って縫う場合には、段付き押えを使います。布地を折った部分(段部)に、段付き押えの裏側にある切り欠き部分がのるように、布を置いて縫います。

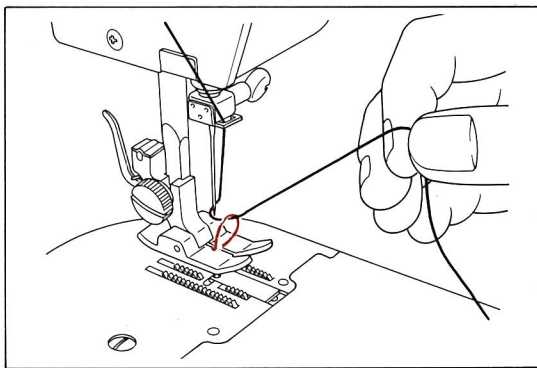
(2) 下糸の引き上げ方



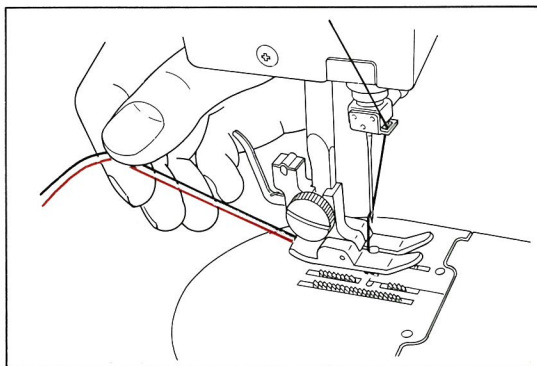
上糸のはしをかるくつまむ



針を一回上下させます



上糸を引くと下糸が出てきます



上糸と下糸をそろえて向う側に出す

1. 上糸と下糸の用意ができましたら、下糸を上
に引き出して下さい。

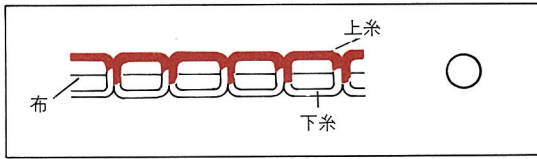
針に通した上糸のはしをかるくつまんで

2. ハズミ車を手前に回して、針を一回上下させま
す。

3. 針が上ったところで止めて、上糸を引きますと、
下糸が出てきます。

4. 上糸と下糸をそろえて、押えの下を通して向う
側に出します。

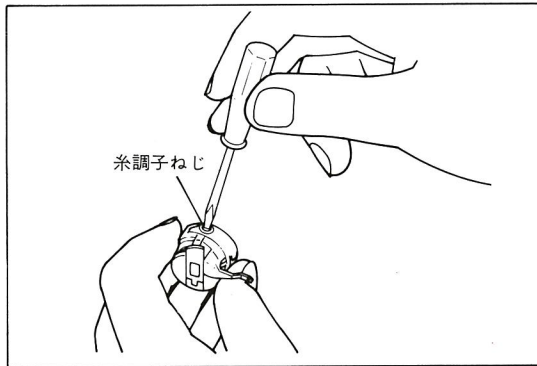
(3)糸調子について



糸調子は、上糸と下糸とが布の中心でからみ合うのが正常です。糸調子が正しく調節されていないと縫目がきたなくなったり、布にしわがよったりしますから注意して下さい。

糸調子の出し方は、最初の下糸調子を出し、これに合わせて上糸調子を調節します。

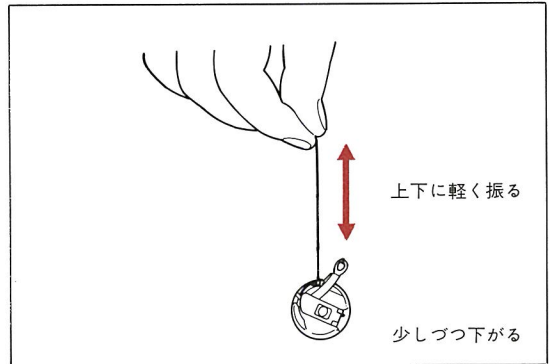
⊕下糸の調節



下糸の調子は、糸がスルスル出たり、強すぎたりしないように調節して下さい。

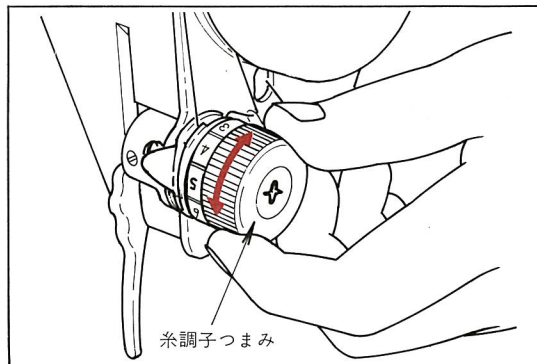
ボビンケースの糸調子ねじを

1. 右へ回らすと、糸調子は強くなります、
2. 左へ回らすと、糸調子は弱くなります。



★普通の場合、ボビンケースに下糸を巻いたボビンを入れ、糸調子ばねの下に通して、糸のはしを持って上下に軽く振ると、少しずつ糸が引き出される位の糸調子にします。

⊕上糸の調節



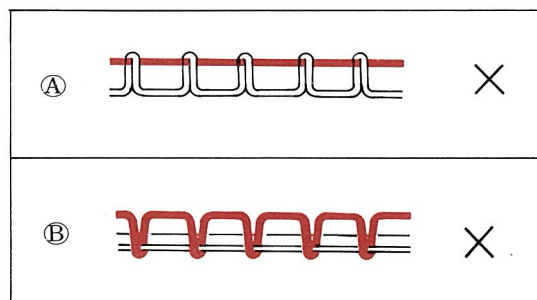
上糸は糸調子つまみで調節します

上糸の調子は糸調子つまみで調節します。

1. 右へ回せば、上糸調子が強くなります
(目盛の数字が、大きくなる)
2. 左へ回せば、上糸調子が弱くなります
(目盛の数字が小さくなる)

★下糸の調子を先に調節しておきますと上糸の調子を調節するだけで、簡単に縫調子が出せます。

⊕正しくない糸調子

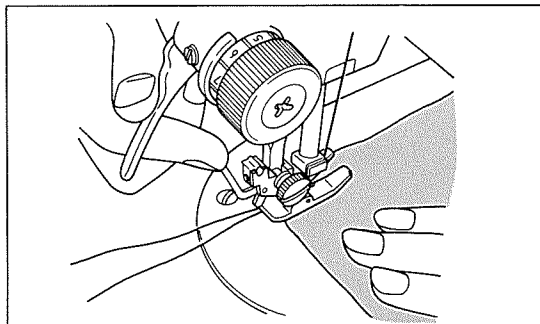


Ⓐ上糸の調子が強い場合 (又は下糸調子が弱い)
上糸調子を弱くする (又は下糸調子を強くする)

Ⓑ下糸の調子が強い場合 (又は上糸調子が弱い)
下糸調子を弱くする (又は上糸調子を強くする)

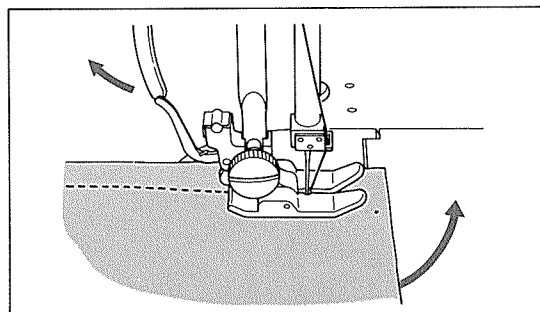
(4) 縫い方

⊕縫い始め



1. 上糸と下糸をそろえて、押えの下より向う側に15センチほど出します。
2. 針を上げておき、布地を押えの下に置きます。
3. ハズミ車を手前に回わして、針を布地に刺し
4. 押えをおろして縫い始めます。

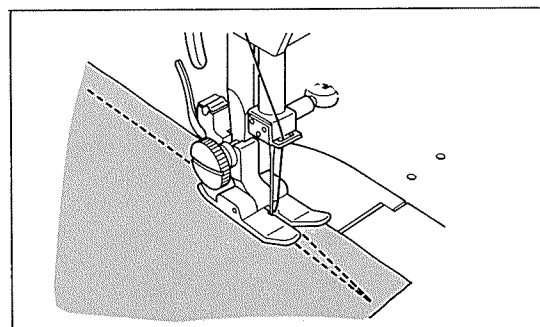
⊕縫い方向の変え方



布地の角を縫うときや、縫い方向を変えるときは、

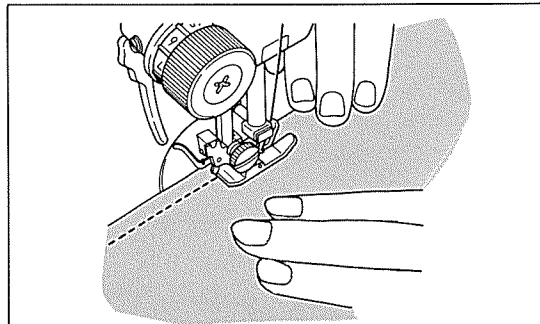
1. 針を布地にさしたまま、押えを上げ、
2. 針を中心に布地を回わして方向をきめ

⊕かえし縫

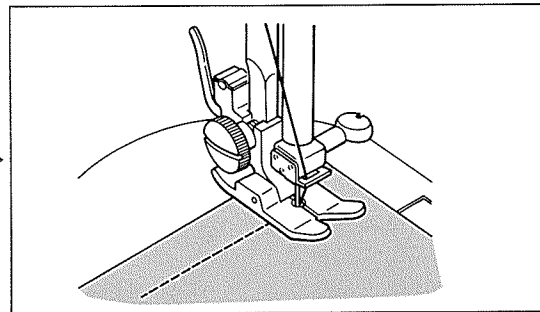


縫い始めや、縫い終りには、かえし縫いをする
と糸がほつれません。

1. 縫い始めの場合は、布地のはしより約5ミリのところより送りレバーを押して、返し縫いをし、布地のはしまで縫い終りましたら、送りレバーを押すのをやめてそのまま縫って下さい。
2. 縫い終りの場合は、布地のはしまできたとき、送りレバーを押して約5～6針ほどかえし縫いを行います。

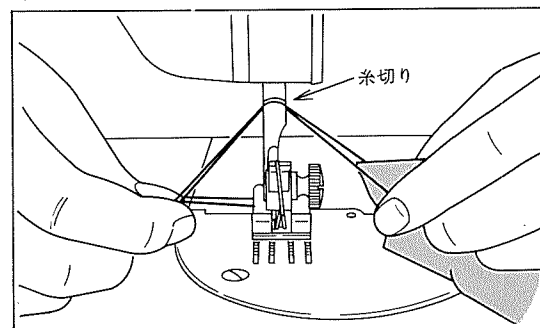


★縫っている間は、布地は押えと送り歯の運動により、自動的に送られますから布地を引っぱらないようにして下さい。
手はかるく布地にそえるようにします。



3. 押えをおろして縫い始めます。

⊕縫い終り



1. 縫い終わったら針と、押えをあげます。
2. 布地を静かに向う側に引き出し、
3. 布について引き出された上糸と下糸をそろえて約15センチ引き出し、図のように糸を切ります。

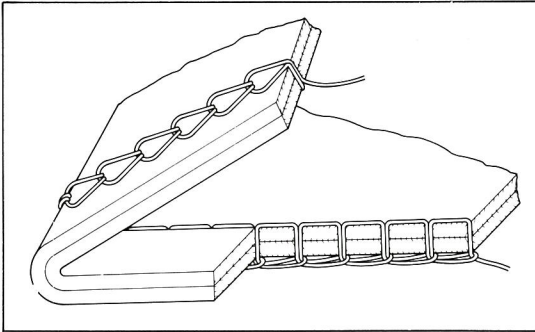
スーパーチェーンステッチ

このミシンでは、2種類のチェーンステッチができます。

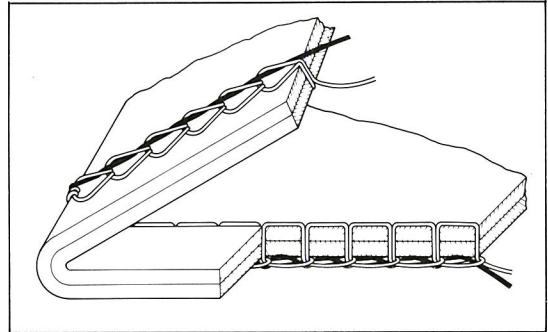
その1つは、上糸一本で縫える**チェーンステッチ**で、図のように布地の表側は普通の直線縫いのように見えますが、布地の裏側はチェーンのようにからみ合っています。

もう1つは、下糸のはいったチェーンステッチ（**ロックチェーンステッチ**）で、図のように布地の裏側に下糸が入っています。下糸のはいったロックチェーンステッチはニットやジャージのような伸縮性をもった生地のに最適です。

このスーパーチェーンステッチ縫い装置はレバーの操作一つで直線縫いやジグザグ縫いが簡単にできます。



チェーンステッチ



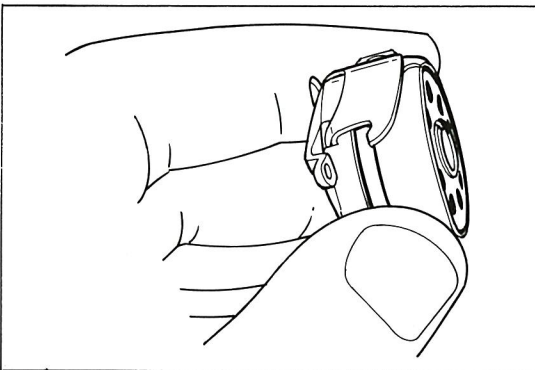
ロックチェーンステッチ

(1)チェーンステッチの応用

- 簡単にほどこけやすい縫目ですから、替えカラー、カフス、座ぶとんカバーなど、たびたび取り外しするものの裁縫や、洋服、ブラウス、シャツなどの仮縫い、また、和服、その他、寝具などのようにほどこくこともある裁縫に使用すると便利です。
- 伸縮性に富んだ縫目ですからニットやジャージなどの伸び縮みする裁縫に便利です。
- 縫い目がくさり状になっているので縫い目が美しく、エリ、エプロン、ポケットなどの縁取りに裏目を利用することもできます。

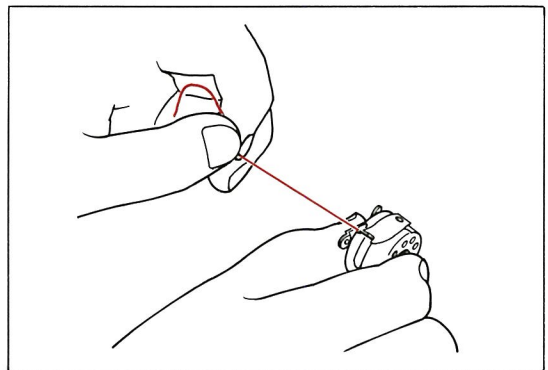
(2)縫いの準備


⊕チェーンステッチの場合



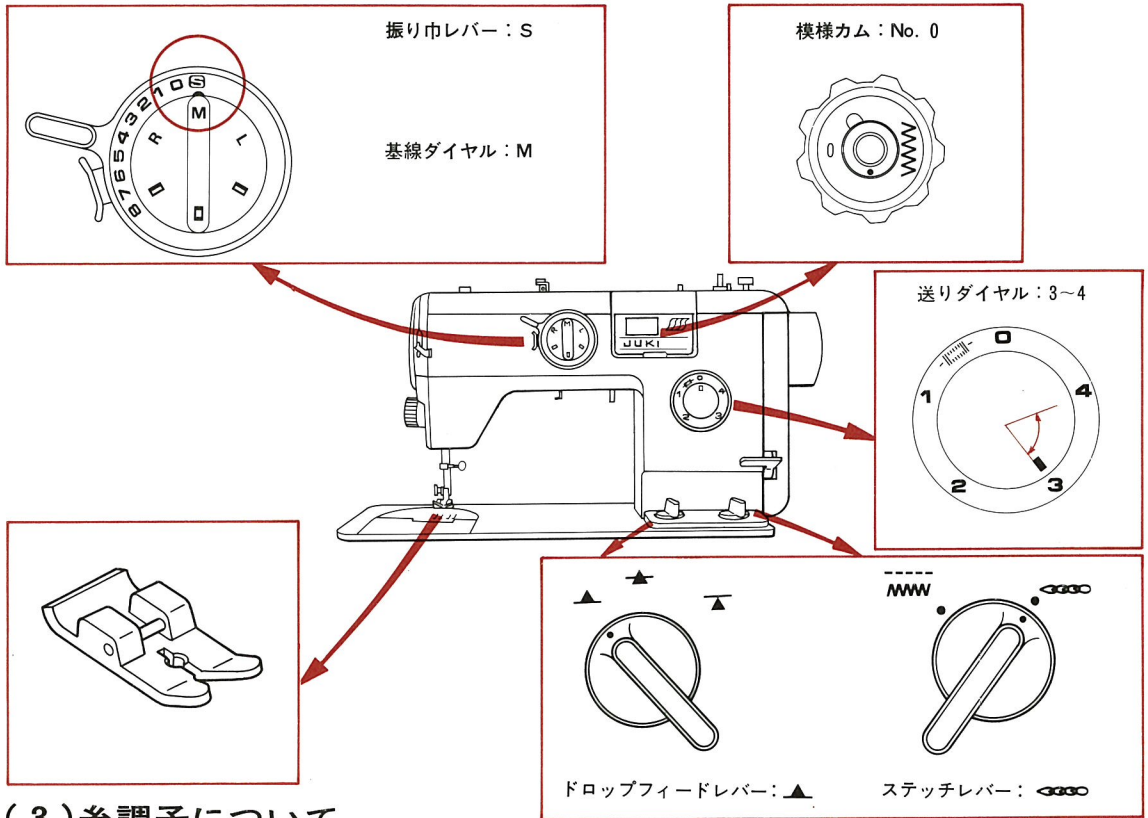
1. 下糸はボビンケースより出ないようにボビンに巻き込んでおきます。
ボビンは外して使用してもかまいません。

⊕ロックチェーンステッチの場合



1. 下糸は直線縫い、ジグザグ縫いの場合と同じように、糸端をボビンケースより10cmほど引き出しておきます。
2. チェーンステッチの場合と同じように、ステッチレバーを指標（)に合わせるだけで縫いの準備は完了です。

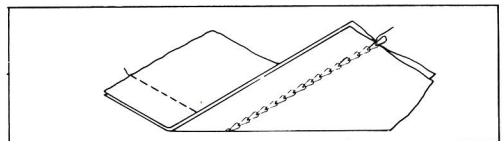
⊕ ミシンの合わせ方



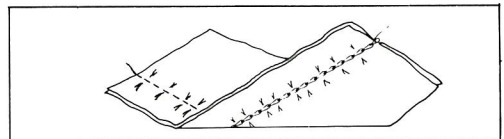
(3) 糸調子について

⊕ 針と糸と布地の関係

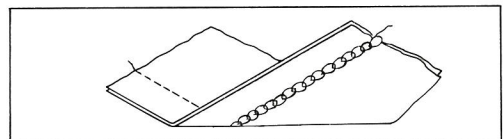
- 5 頁の表を参照して下さい。
- ジャージ、ニット等の伸縮性のある生地を縫う場合には、ニット針をご使用下さい。
- ☑ 綿糸使用の場合、糸調子ツマミの目盛は強め（6～8）に合せ、化繊糸の場合は弱め（4～6）に合えます。
- 最適の糸調子はループが平らで、滑らかなループができます。
- 糸調子が強すぎると、布地にしわがよったり、しめつけられたループができます。
- 糸調子が弱すぎると、不規則な大きなループができます。この場合はツマミを大きい数字の方へ回して糸調子を強くします。



正しい糸調子



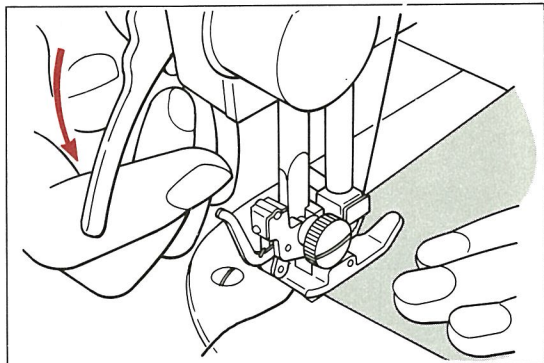
糸調子が強すぎるとき



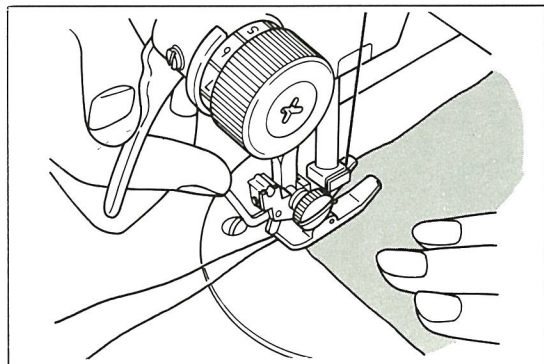
糸調子が弱すぎるとき

(4) 縫い方

④ 縫い始め



押えをおろして縫い始めます



上糸と下糸をそろえて、押えをおろして縫い始めます

★チェーンステッチの場合


1. 上糸を押えの下より向う側に15センチほど出します。
2. 針を上げておき、布地を押えの下に置きます。
3. ハズミ車を手前に回わして、布地のできるだけ端に針を刺します。
4. 押えをおろして縫い始めます。

★ロックチェーンステッチの場合

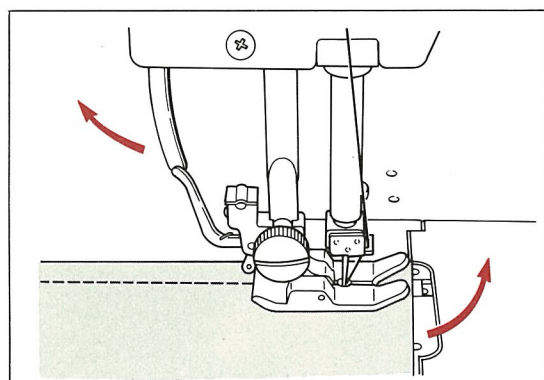
1. 上糸と下糸をそろえて、押えの下より15センチほど出します。
2. 針を上げておき、布地を押えの下に置きます。
3. ハズミ車を手前に回わして、布地のできるだけ端に針を刺します。
4. 押えをおろして縫い始めます。

④1. 縫い速度は普通縫いよりやや遅い速度で（600回転/毎分）で縫われた方が、縫い目のきれいなチェーンステッチ縫ができます。

④2. かえし縫いは絶対にしないで下さい。

④3. チェーンステッチ縫いをしている時に、糸がカマに喰い込んだりしてミシンが重くなった場合には、無理に回さしないで必ずステッチレバーを()に戻して、はずみ車を回わし、糸クズを取り除いて下さい。

(5) 縫い方向の変え方



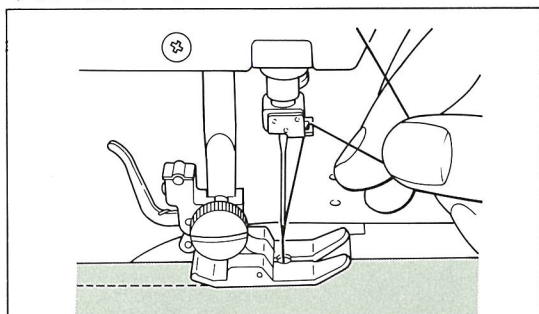
押えを上げ針を中心に布をまわす

布地の角を縫うときや、縫い方向を変えるときには

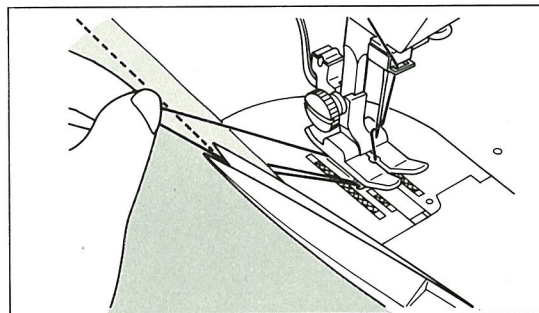
1. 針は必ず布地にさして針が上がってきたとき針穴が布からわづか出た位置でとめ、押えを上げ、
2. 針を中心に布地を回わして方向をきめ、
3. 押えをおろして縫い始めます。

(6) 止め縫と布地のはずし方

⊕縫い途中のとき

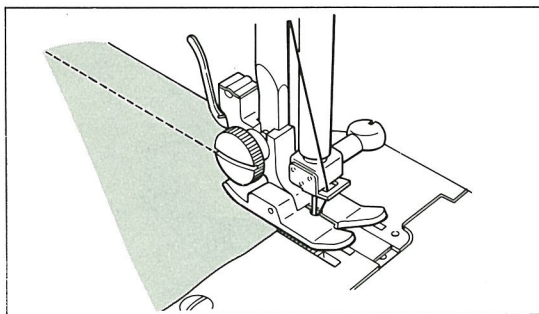


1. 針位置を最高にし、押えを上げ、針棒糸かけの近くの糸を引き出します。

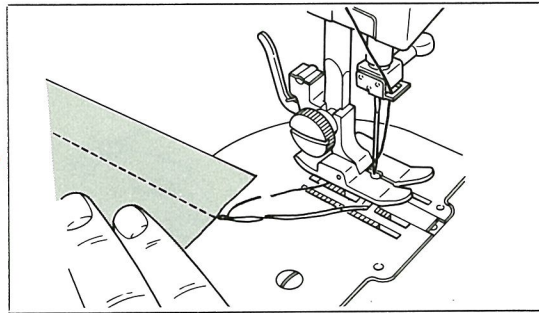


2. 縫い目の終りの近くをはさみで切ります。

⊕縫い終りのとき

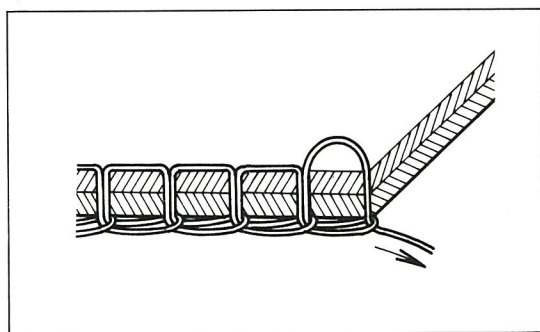


1. 布端まで縫い終って、布端から1~2針縫い、

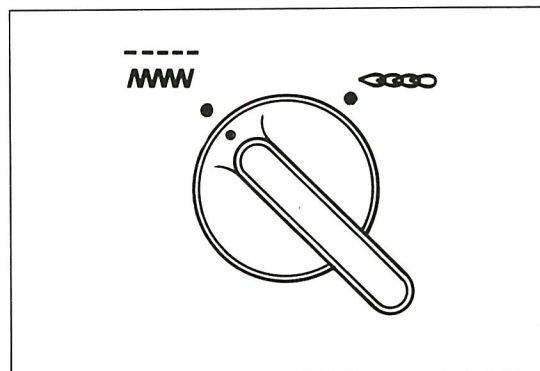




3. 布を向こう側へ引き出しますと、自然にほつれ止めになります。

⊕ほつれ止めの仕方



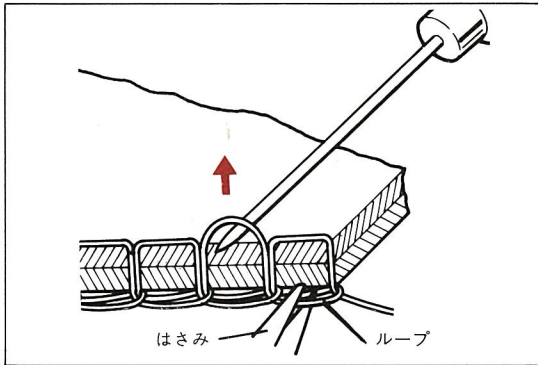
1. ほつれ止めは布地の表に出ている縫い終りの糸を布地の裏側へ、ループの真中から引き出せばほつれません。ほつれやすい糸は、糸端を長目にとりループと結びます。



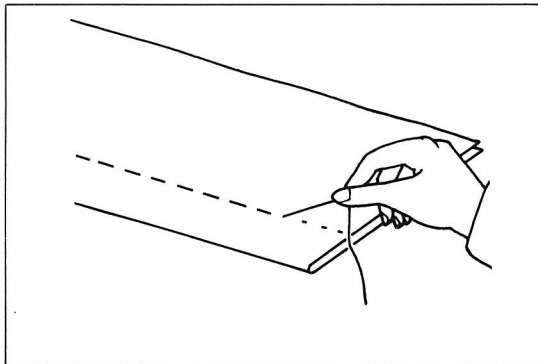
- ★下糸のはいったチェンステッチの場合は、縫いはじめや縫いおわりにステッチレバーを()に戻して、ふつう縫いと同じように止め縫いをしますと、糸はほつれません。止め縫いをしてふたたびチェンステッチ縫いをする時は必ずステッチレバーを()にあわせて下さい。

(7)縫い目をほどくには

④チェーンステッチのとき

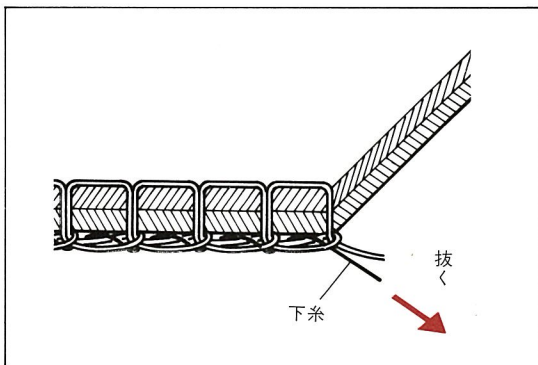


最後のループをはさみで切ります



糸端を引張ればほどけます

④ロックチェーンステッチのとき



下糸を抜き取ります

1.縫い目をほどくには、布地の裏側に出来た最後のループをはさみで切ります。

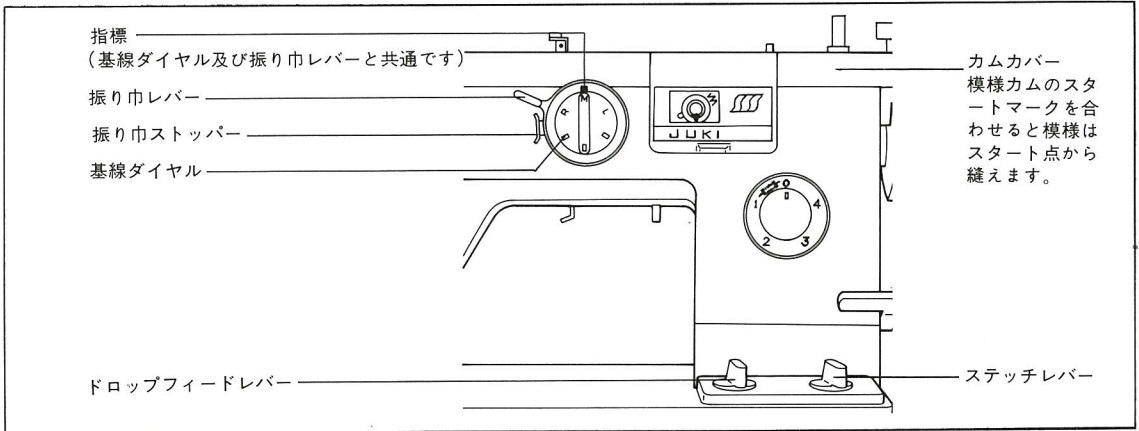
2.切った糸端を布地の表側に引張り上げます。

3.その糸端を引張れば縫い目は簡単にほどけます。

注意縫い終わった方向からほどかないとほどけません。

ジグザグ縫い

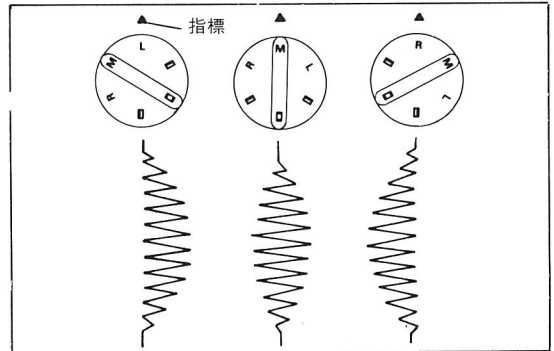
(1)ジグザグ機構の名称と使い方



⊕基線ダイヤルの使い方

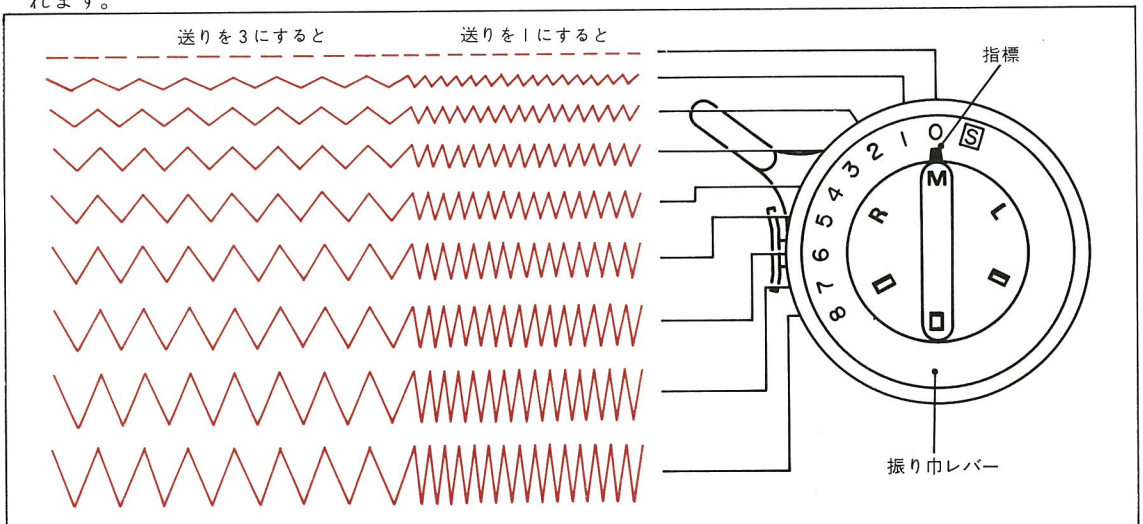
基線ダイヤルの位置は、針振りの基準となるもので、L(左)、M(中)、R(右)に基準を換えることができます。

- ① 基線ダイヤルLを指標に合わせれば、針はL点を基準にして右へ振ります。
- ② 基線ダイヤルMを指標に合わせれば、針はM点を基準にして左右に振ります。
- ③ 基線ダイヤルRを指標に合わせれば、針はR点を基準にして左へ振りながら縫えます。
- ④ ボタンホールの場合には □ → □ → □ → □ に合わせて下さい。



⊕振り巾レバー

- 振り巾レバーでジグザグの巾を自由に調節できます。0～8の数字は振り巾の大きさを表わし、数字が大きくなるほど、振り巾が大きくなります。
- 振り巾レバーの数字を黄色の指標に合わせて、振り巾ストッパーで固定しますと、一定の振り巾が得られます。



⊕ 二本針縫いを行なうときは0～6までの範囲を使い、オレンジ色の数字の7と8は使用しないで下さい。

⊕振り巾ストッパー

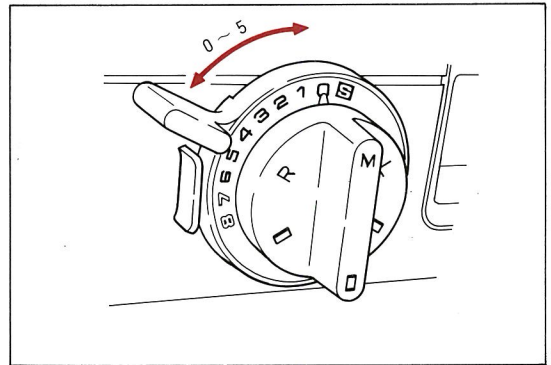
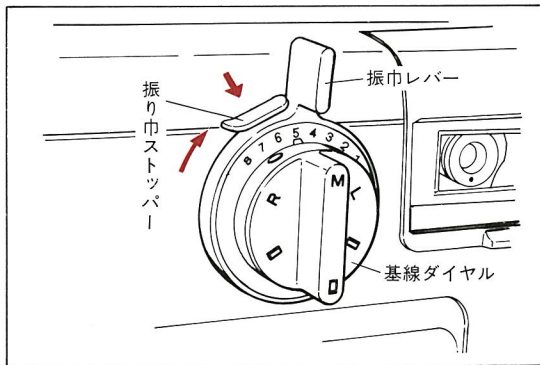
- 振り巾を一定しておくには、振り巾ストッパーで固定します。
- 振り巾ストッパーは強く押しながら回しますと左へも右へも動きます。指を放しますと放した位置で振り巾ストッパーがセットされます。

※振り巾を5に固定する場合

- ①振り巾レバーの5を指標に合わせます。
- ②振り巾ストッパーを押しながら右へ止まるまでまわし、指を離します。
振り巾が5で固定します。

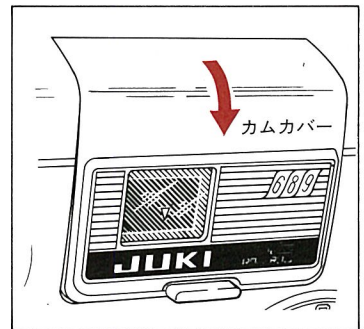
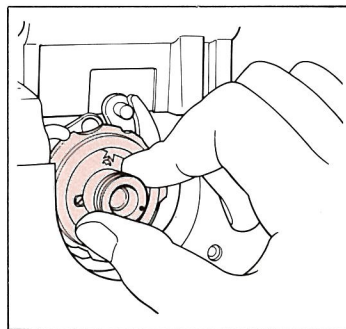
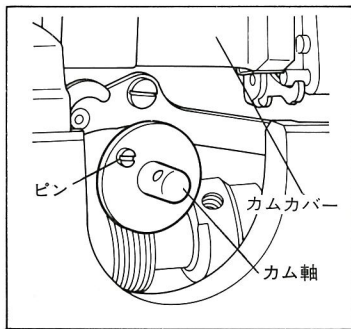
※振り巾を0～5に制限する場合

- ①振り巾を0～5にする様な縫のときは制限レバーを0にしておいて下さい。



⊕模様カムの取りつけ方

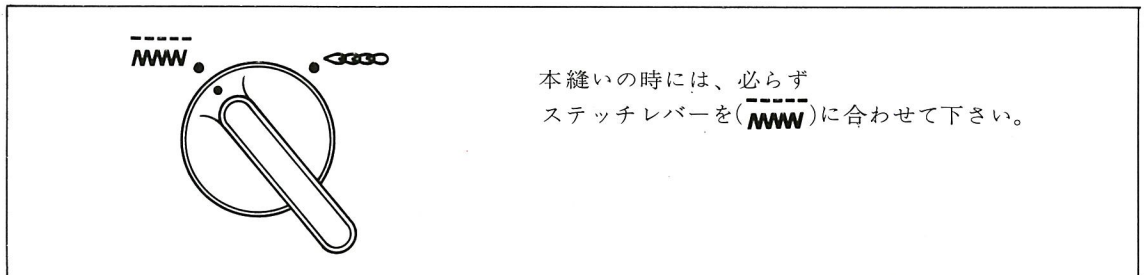
模様カムは交換式です。お好みの模様カムを選んで交換して下さい。



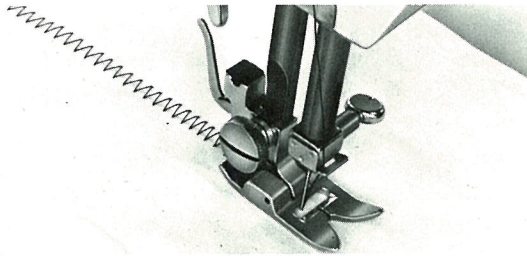
1. カムカバーをとるところまで一ぱいに開いて下さい。
2. 模様カムをカム軸にさし込み、模様カムの小穴にピンを合わせて止るところまで差込んで下さい。
3. 模様カムが正確に入りましたらカムカバーをもとの位置にしまして下さい。

⊕カムカバーを開いたままでは縫えませんから必ずしめて下さい。

⊕ステッチレバーの使い方

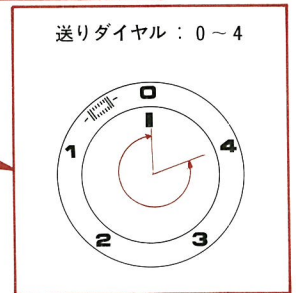
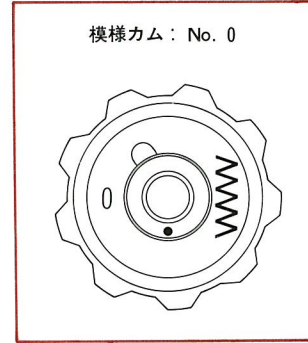
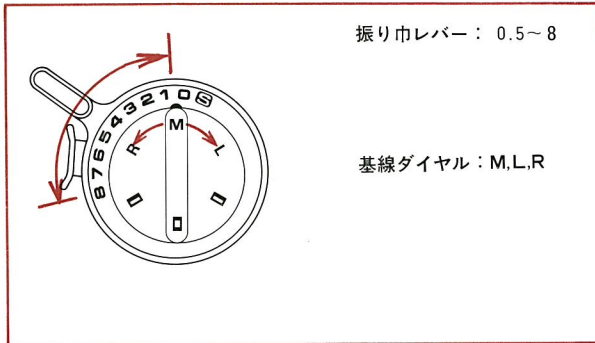


(2) 縫いの準備



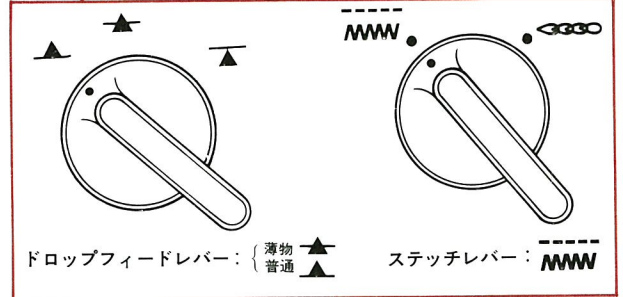
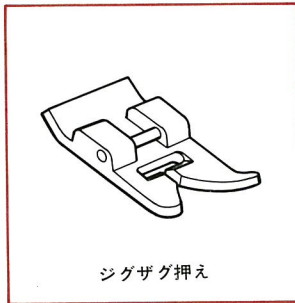
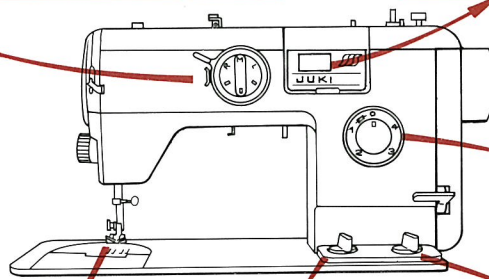
ジグザグ縫いは針を左右に振りながら縫います。振り巾を大きくしたり、小さくしたりして変化のあるジグザグ縫いができます。

★送りダイヤルを大きな数字に合せると振り巾は同じで縫い目のあらいジグザグ縫いができ、小さな数字に合せると縫い目のこまかいジグザグ縫いができます。



★一定の振り巾だけのジグザグ縫い

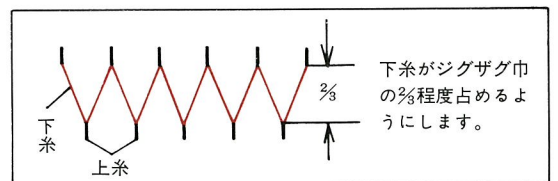
振り巾レバーの数字を指標に合せ、振り巾ストップパーで固定します。



(3) 下糸の引き上げ方 — 直線縫いのところをごらん下さい。

(4) 糸調子について

ジグザグ模様縫いをするときは、手動のときも自動のときでも同じです。上糸の調子を直線縫いのときより弱くして、上糸と下糸の結び目が、布地の下になるようにします。

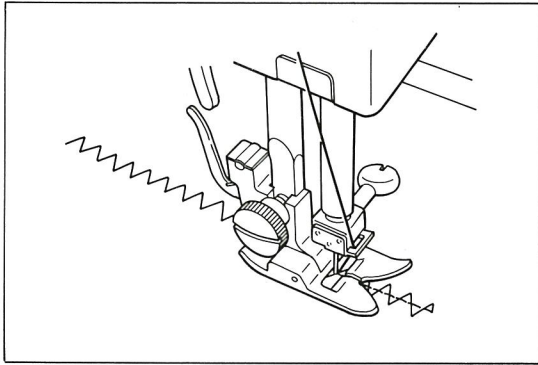


(5) 縫い方

⊗縫い始め

直線縫いのところをごらん下さい。

⊕かえし縫い



1. 縫い始めの場合は、振り巾レバーを0にして、布地の端より約5mmのところより、送りレバーを押して縫い始め、布地の端まで縫い終わりましたら送りレバーを離し、振り巾を出して縫い始めます。
2. 縫い終りの場合は、布地の端まできたとき、振り巾レバーを0にして、送りレバーを押して約5～6針ほどかえし縫いをします。

(6) 縫い方向の変え方——直線縫いのところをごらん下さい。

⊕薄物を縫う場合

- 送りダイヤルは目盛2以上に合わせて縫って下さい。細かい目で縫いますと糸の締りで布地にシワがよったりします。
- ドロップフィードレバーを▲に合わせて下さい。
- ダーナーは中ほどより少し下のところまで押します。
- 振り巾が大きいと布縮みが出ますので、普通振り巾は1～5で縫って下さい。

手動模様縫い

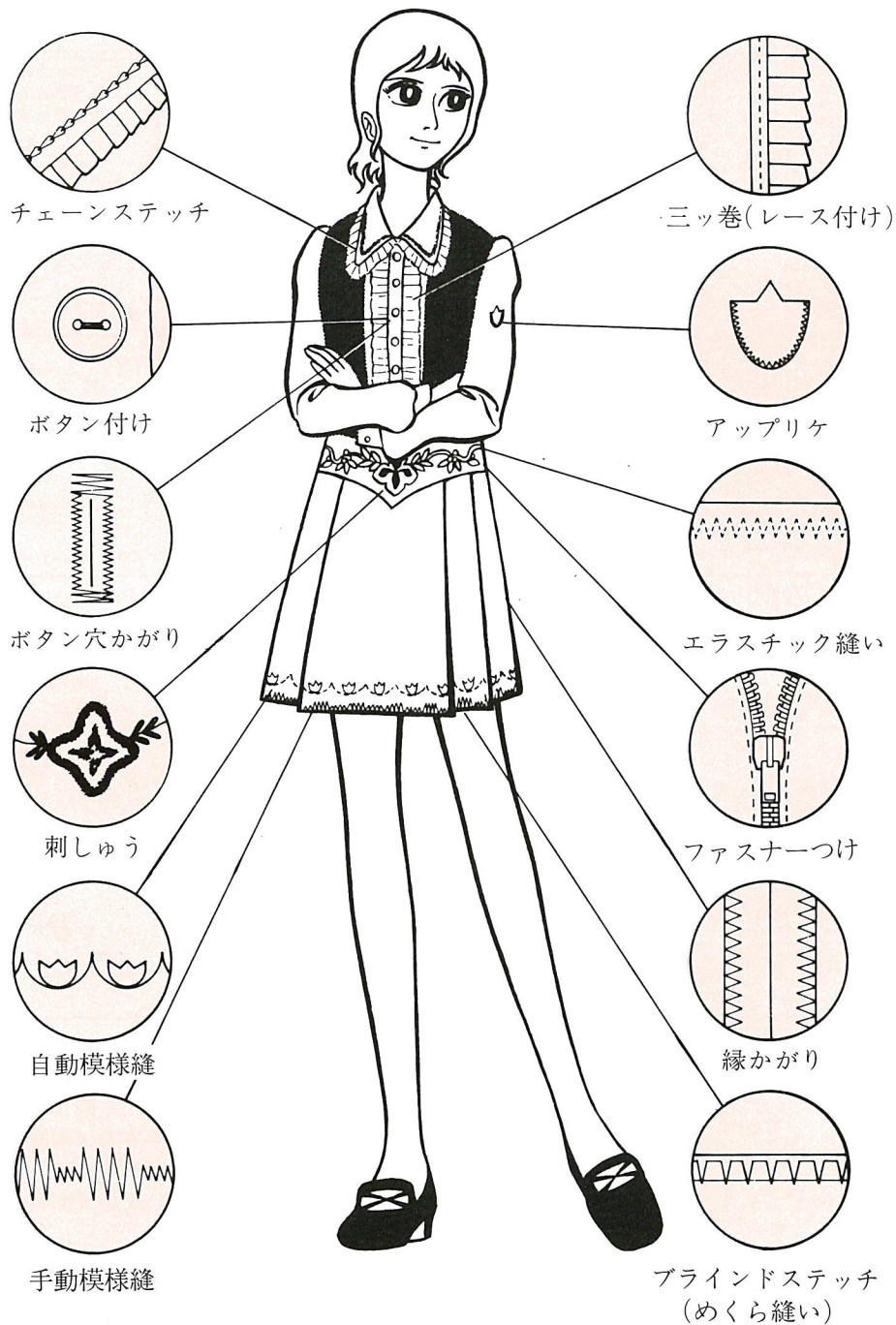
- 送りダイヤルは0～1の中間にします。
- 振り巾レバーを自由に操作できるように振り巾ストッパーを、振り巾レバーの目盛が0になる様にセットして下さい。
- 振り巾レバーを操作しますと自動模様とは違ったいろいろな模様縫ができます。
(刺しゅうは振り巾レバーの操作が基本となります。)

	振り巾レバーの動かし方
	同じ速さで振り巾0から8まで往復しながら縫った模様です。とくに山と谷の所で手早くもどきますと美しくとがります。
	振り巾0から8の間を左右にゆっくり振りますと左の模様縫いができます。
	振り巾ストッパーを左側で振り巾3に固定します。そのまま5～6ミリ縫い急に振り巾を8にして更に5～6ミリ縫い、再び振り巾を急に3に戻して縫います。これをくりかえして縫います。
	0からゆっくり8まで動かし、8から手早く0の所までもどしこれをくり返して縫います。

いろいろな縫い方

ジューキミシン1台でいろいろな縫い方ができます。

直線縫いはもちろんのこと、カム交換による自動模様縫い、ボタン穴かがり縫い、ボタン付け、チェーンステッチや美しい刺しゅう、アップリケなどいろいろな縫い方が簡単にできます。



1. 自動模様の縫い方

振り巾レバー：
一本針 4～8
二本針
カムNo. 1～9
：2.5～6
カムNo. 10～18
：6
基線ダイヤル：M

模様カム：一本針 No. 1～21
二本針 No. 1～18

ジグザグ押え

送りダイヤル：0.5～4
各模様カムに刻まれた
送り量に合わせます

ドロップフィードレバー：(薄物.....▲ 普通.....▲)

ステッチレバー：WWW

☑ 模様カムNo.10～21の一本針自動模様縫いのはきは振り巾レバーを8に、送りダイヤルを4にして下さい。
模様カムNo.10～18の二本針自動模様のときは振り巾ストッパーで振り巾レバーを6に固定します。

送り4

送り1.0

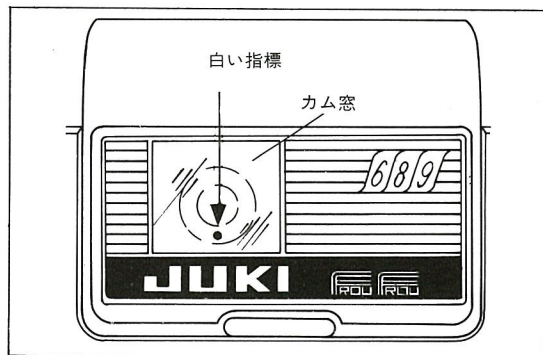
送り4

送り1.5

- 模様カムNo.1～No.21には、使用可能な送り目盛の範囲が刻んであります。
- 送りをその範囲内で変えることにより、模様が縮み、又異なった模様ができます。
- 好みの送りにして、ご使用下さい。
- 正規の模様は送りをその範囲内で最大にします。
















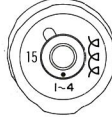






⊕ サテンステッチ

- 模様カムはNo.1～No.7をご使用下さい。
- 送りダイヤルを、0.5(-||||| -)の中間に合わせます。

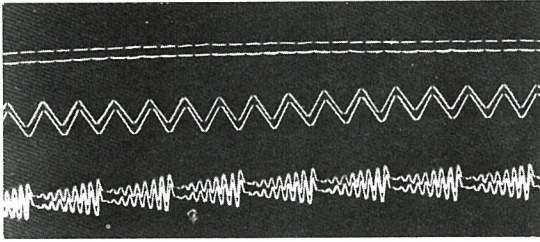


- はずみ車をまわして、**模様カムにある印とカムカバー窓にある白い指標とを合せて縫い始めますと、模様のスタートから縫うことができ、一模様縫いたいとき使用すれば便利です。**
- ☑ カムに刻んである模様のスタートと実際のスタートは若干異なります。使用説明書の“模様カムの種類”の項をごらん下さい。

模様カムの種類

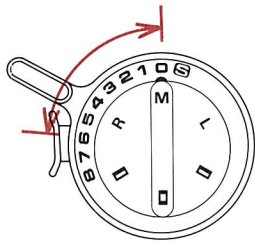
模様カム																
	0~8	0~6	4~8	2.5~6	4~8	2.5~6	4~8	2.5~6	4~8	2.5~6	4~8	2.5~6	4~8	2.5~6		
振り巾	0~8	0~6	4~8	2.5~6	4~8	2.5~6	4~8	2.5~6	4~8	2.5~6	4~8	2.5~6	4~8	2.5~6		
送り	0~4		0.5~1.5		0.5~1.5		0.5~1.5		0.5~1.5		0.5~1.5		0.5~1.5			
模様カム																
	8	9	10	11	12	13	14	15								
振り巾	4~8	2.5~6	4~8	2.5~6	4~8	6	4~8	6	4~8	6	4~8	6	4~8	6		
送り	0.5~4		1~4		1.5~4		1.5~4		2~4		1.5~4		2~4		1~4	
模様カム																
	16	17	18	19	20	21										
振り巾	4~8	6	4~8	6	4~8	6	4~8	6	4~8	6	4~8	6	4~8	6		
送り	1~4		1.5~4		1.5~4		1.5~4		1.5~4		4		4			

二本針縫い



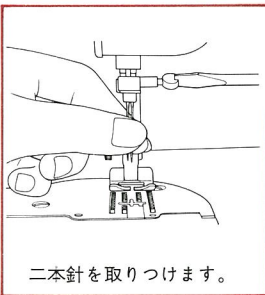
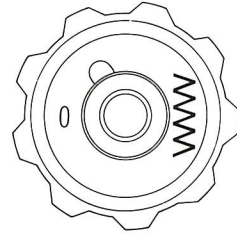
○二本針縫いは、色の違う二本の糸で同時に同じ模様を縫う事が出来ますので変化に富んだ美しい模様が出来ます。

★糸の太さは同じ番手の糸を使用して下さい。又同じ種類の糸を使用しますと、より美しく仕上がります。

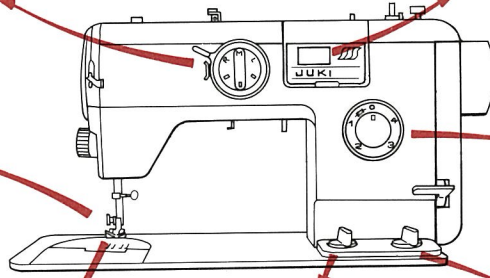


振り巾レバー：
自動縫い、手動縫いともに振り巾レバーは6以下に使用します。
カムNo. 0：0～6
カムNo. 1～9：2.5～6
カムNo. 10～18：6
基線ダイヤル：M

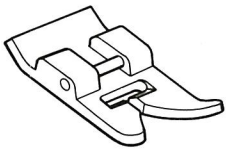
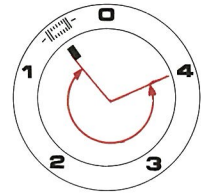
模様カム：No. 0～18



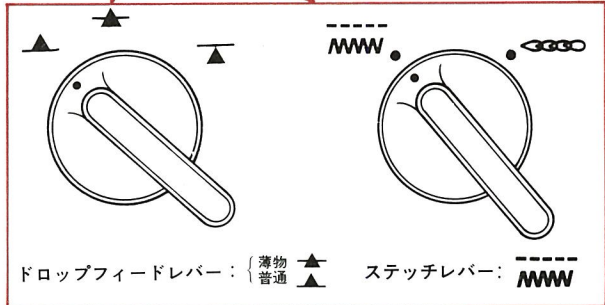
二本針を取りつけます。



送りダイヤル：0.5～4
各模様カムに刻まれた送り量に合わせます



ジグザグ押え



ドロップフィードレバー：薄物 ▲ 普通 ▲

ステッチレバー：M

④振り巾レバーの目盛の6以上<オレンジ色>を指標に合せて縫いますと、押えや針板に針があたり、針が折れたり曲ったりしますからご注意ください。

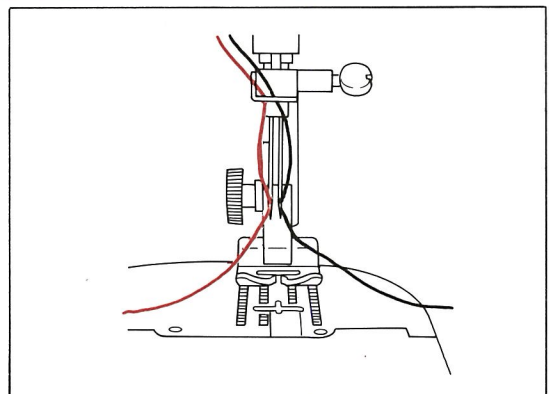
④二本針で直線縫いをするときは、振り巾レバーは必ず0に合わせて下さい。

④上糸の掛け方

上糸の掛け方は糸立棒に二つの糸を立て二本の糸をそろえて、一本針の場合と同じ順序で掛け、針の穴には別々に通します。

★縫い方向の変え方

縫い方向を変えるときは必ず針を布から抜いてからお変え下さい。



ボタン穴かがり



○子供服、婦人服、シャツ、ブラウスなどのボタン穴かがりに用います。

振り巾レバー：S

基線ダイヤル：
基線ダイヤルは、
□□□を使いま
す。

模様カム：No. 0

送りダイヤル：-||||-線の範囲

送りダイヤルの目盛は白線の範囲内で調節して下さい。

(太い糸や目の荒い布を使用したときは送りダイヤルの数字の1に近いところに合せますと、目づまりがなくなります)

ターナーは中ほどよりやや強めにします。

ボタン穴かがり押え

ドロップフィードレバー：▲

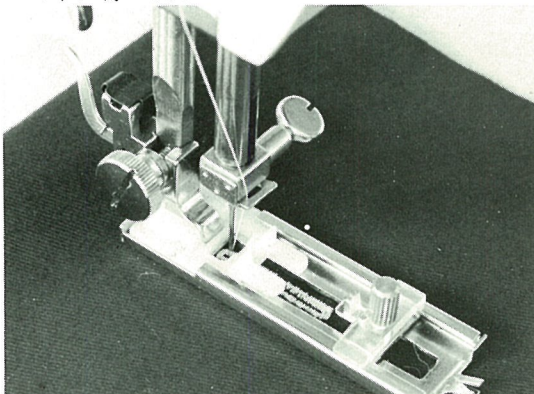
ステッチレバー：-----
MMM

○ボタン穴かがりの長さは、ボタンをボタン穴かがり押えにセットするだけで、自動的に決まります。ボタンをはずしてから縫い始めて下さい。

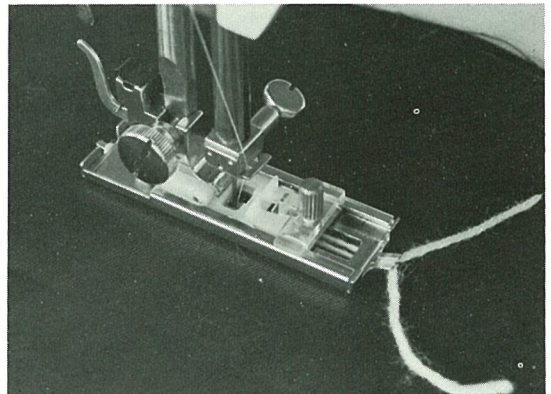
○次ページの順に縫って下さい。

★薄い布地にボタン穴かがりをするときは、布地の下に薄い紙などをしくときれいにできます。

★メリヤス、ジャージなどのボタン穴かがりをするときは、芯糸を入れて穴かがりをするときれいに出来ます。(次頁を参照)



普通のボタン穴かがり

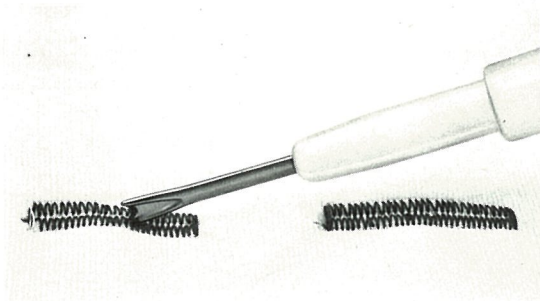


芯糸を入れたボタン穴かがり

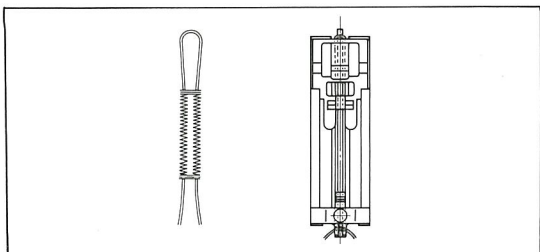
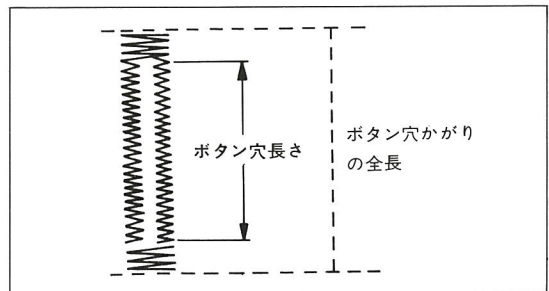
⊕ ボタン穴かがりの縫い方

	<p>1. ボタン穴かがりの左側を縫います。 針を上げて基線ダイヤル目盛 L を指標に合わせストップするところまで縫います。</p>
	<p>2. ボタン穴かがりの下側の閉止めをします。 次に布地より針を上げ基線ダイヤルの L 印を指標に合わせ、カン止め縫いを5～6針縫います。</p>
	<p>3. ボタン穴かがりの右側を縫います。 布地より針を上げ指標に R 印を合わせて、右側のボタン穴かがりをストップするところまで縫います。(この時自動的にバック縫いになります。)</p>
	<p>4. ボタン穴かがりの上側の閉止めをします。 布地より針を上げ指標に R 印を合わせ、カン止め縫いを5～6針縫います。</p>
	<p>5. 止め縫をします。 次に基線ダイヤルを M に合わせ、ドロップフィードレバーを ▲ にしてから2～3針止め縫いをしますとほどけません。</p>

○リッパー（糸ほどこ）で縫目を切らないように、真中を切り開きます。



○これでボタン穴かがりは出来上りです。慣れますと1回1回針を上げないで初めから最後のカン止め縫いまで連続して縫う事が出来ます。



○芯糸入りのボタン穴かがりをするときは、芯糸をボタン穴かがり押えの先端にひっかけて、手前側をむすびます。そのままボタン穴かがり押えをとりつけて、穴かがりですれば、芯糸入りのボタン穴かがりができます。最後にはみ出た芯糸をハサミで切りとります。

ボタン付け

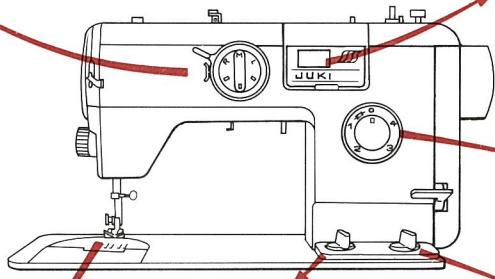
子供服、婦人服、シャツ、ブラウスなどのボタン付けに用います。



振り巾レバー：
ボタン穴の巾に
合わせます。

基線ダイヤル：L

模様カム：No. 0

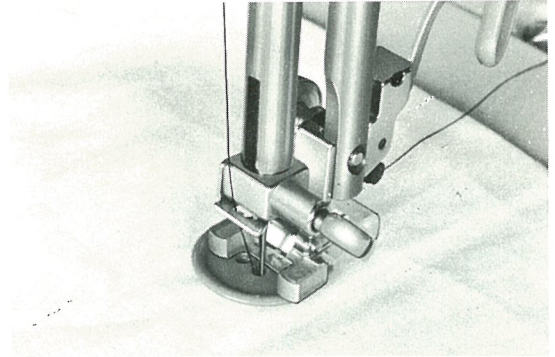
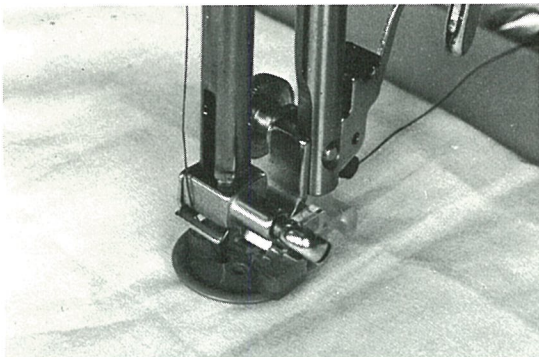


送りダイヤル： /

ボタンつけ押え

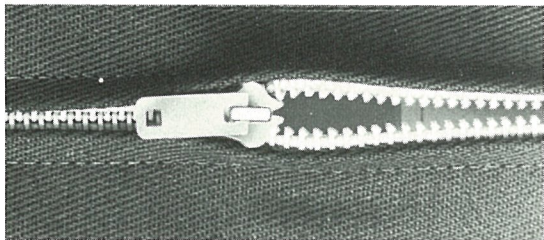
ドロップフィードレバー：▲

ステッチレバー：■■■■



- ボタンつけ押えと布地との間にボタンを置き、振り巾レバーを0に合わせます。
- ボタンの左の穴に針を下してから押えを下げ、手ではずみ車を回して針をボタンより少しあげます。
- 次に振り巾レバーを動かし、針がボタンの右穴に合ったら振り巾レバーを振り巾ストッパーで固定して5～6回縫います。
- 止め縫いは振り巾レバーを0に戻して2～3針縫いますとほどけません。

ファスナーつけ



ワンピース、ブラウス、スカート、スラックス、袋物などのファスナーつけに用います。

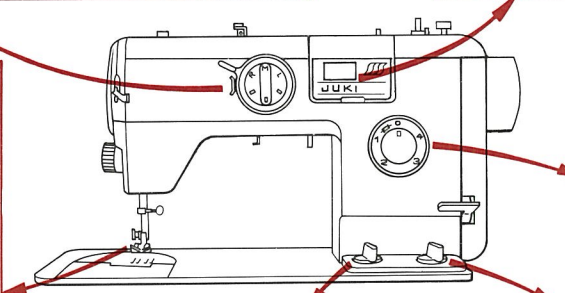
振り巾レバー：S

基線ダイヤル：
コンシールファスナー：M
ファスナー付け：L, R

模様カム：No. 0

ファスナーつけ押え

コンシール
ファスナーつけ押え



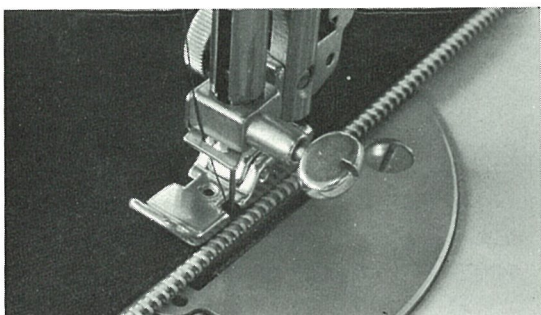
送りダイヤル：1-4

ドロップフィードレバー：薄物...▲ 普通...▲

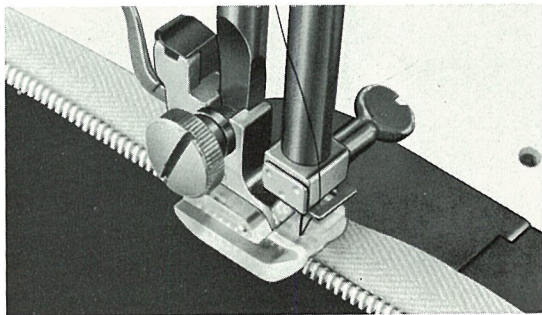
ステッチレバー：MMM

ファスナー押えの使い方

- ファスナーの右側を縫うときは基線ダイヤルをLに合わせ、ファスナー押えが針の右側にくるように、左側を縫うときは基線ダイヤルをRにして、ファスナー押えが針の左側にくるように押え調整ねじをゆるめて縫う位置を調節して縫います。
- コンシールファスナーを縫い付けるときは基線ダイヤルをMにして、押え調整ねじをゆるめて縫う場所を決めて下さい。

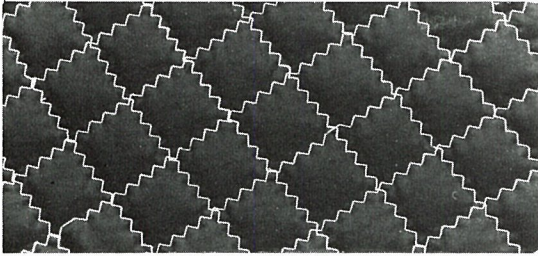


ファスナーを縫う場合

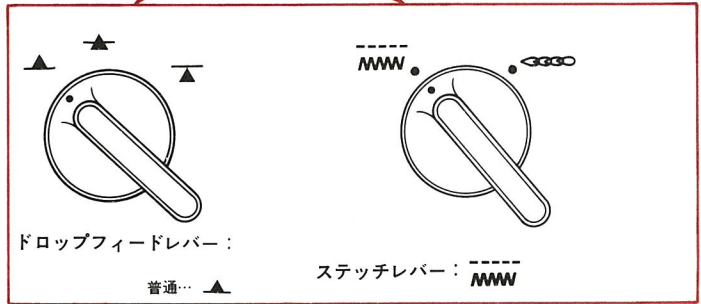
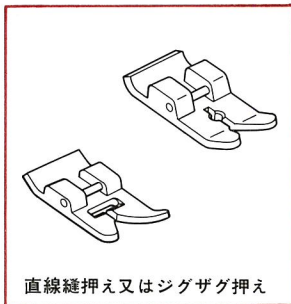
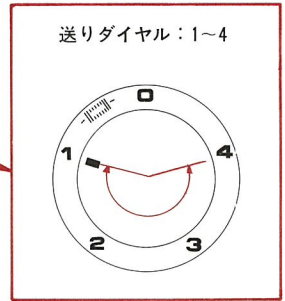
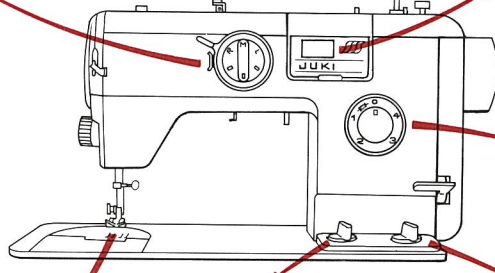
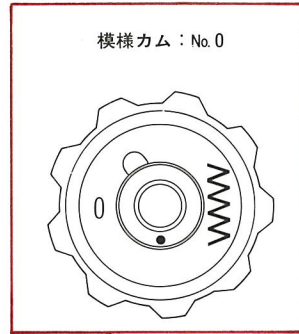
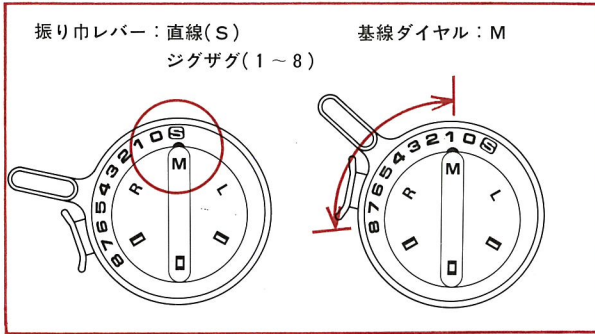


コンシールファスナーを縫う場合

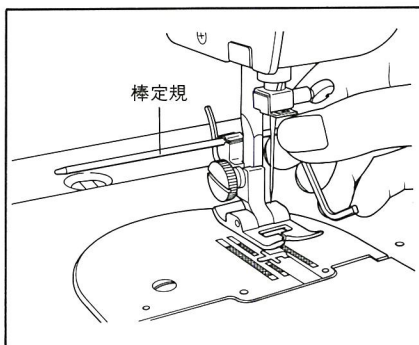
キルティング



ジャンパーやガウン等を、縦、横、ななめ、と平行に縫い目を入れる縫い方で、直線縫いでも、ジグザグ縫いでもできます。



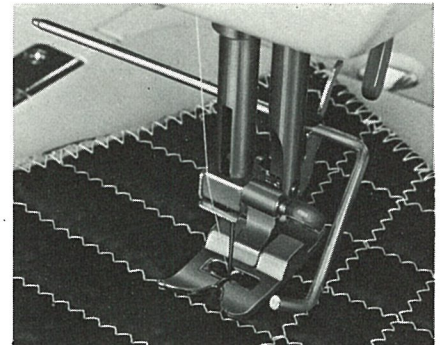
⊗ 棒定規のとりつけ方



棒定規をとりつける

- 押えの後に棒定規をとめるバネがありますからそこに差し込んで下さい。
- 棒定規は自由に左右の調節ができますから、間隔は自由に調節して下さい。

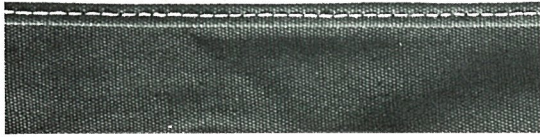
⊗ 縫い方



前の縫目を棒定規でなぞりながら縫います

三つ巻

ハンカチの縁やワイシャツの裾など、布地の端を三つ折りに縫うときに使います。

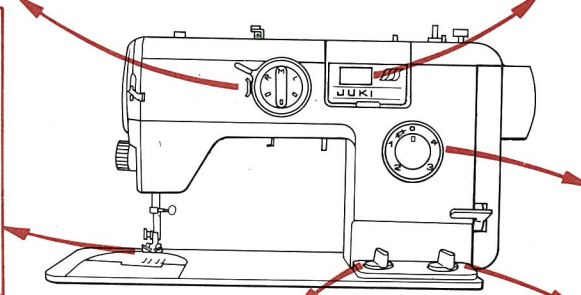


振り巾レバー：直線(S)
ジグザグ(4.5~5.5)

基線ダイヤル：直線(M)
ジグザグ(L)

模様カム：No. 0

三つ巻押え

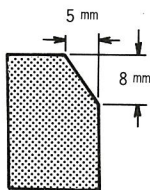


送りダイヤル：2~4

○ジグザグ縫いで三つ巻をなさるときは、振り巾ストッパーで固定して下さい。
レース縫いのときは、ジグザグ縫いでやるときれいにできます。

縫い方

○布地を巻き込み易くするため角を少し切ってください。



ドロップフィーダーレバー：
(薄物... ▲
普通... ▲)

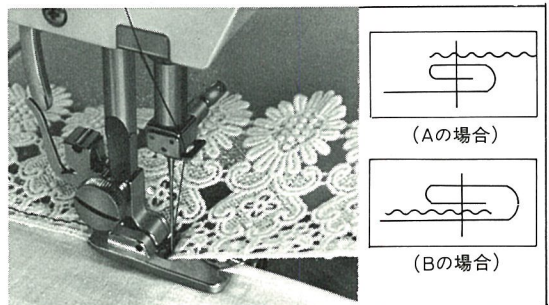
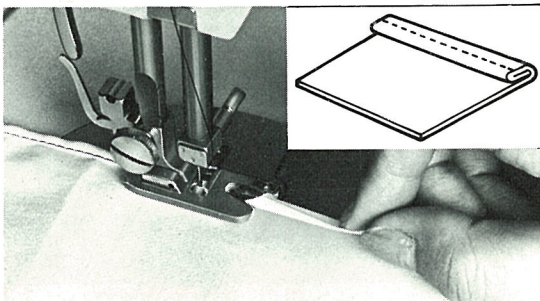
ステッチレバー：----- MWW

レースつけの場合

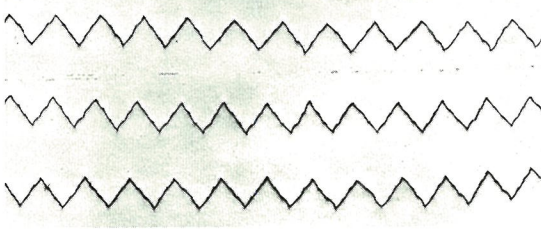
レースをつける場合に、次のような方法があります。

- 三つ巻押えの渦状の溝の中に布地を針のとどくところまで入れてから三つ巻押えをおろします。
- 手ではずみ車を3~4回廻し、正しく巻きこみましたら右手のおや指と人さし指で布をつまみ、常に適量が入り入れられるようにして縫います。

1. 布を三つ巻にしなから、レースを布の上から縫いつけていく方法(A)
2. レースを三つ巻と布の間におき、布を三つ巻にしなから、布とレースを縫いつける方法(B)



エラスチック縫い



伸縮性のある生地（ジャージ、メリヤスなど）を縫う場合、ゴムを布に縫いつける場合などは点線ジグザグまたは普通のジグザグ縫いで縫いつけると、伸縮自在になります。

振り巾レバー：1～8

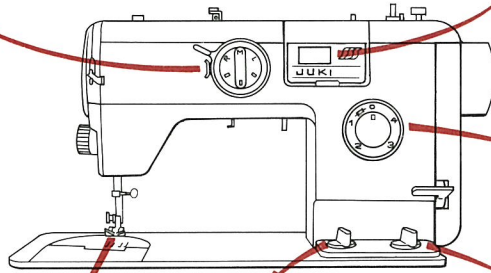
基線ダイヤル：M

模様カム：No. 0またはNo. 9

送りダイヤル：2～4



針はニット針を使用します。

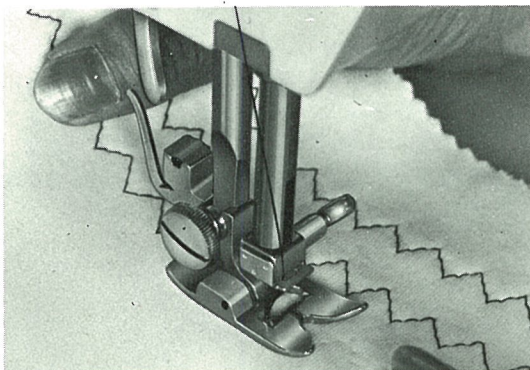


ジグザグ押え

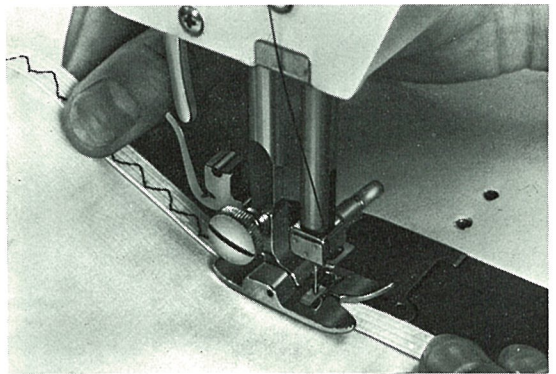
ドロップフィードレバー：薄物...▲ 普通...▲

ステッチレバー：MWW

★模様カムNo. 10を直線縫いと同じ要領で縫う事により伸縮性の有るストレッチ縫いが出来ます。

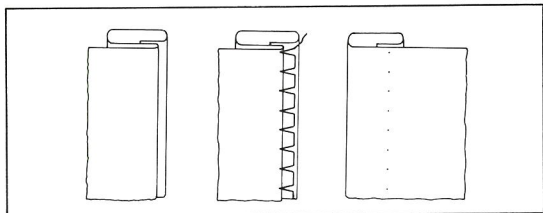


点線ジグザグのメリヤス縫い



点線ジグザグのゴムひもつけ

ブラインドステッチ(めくら縫い)



ズボンやスカート、ブラウス、シャツなどのそで口や裾をくけるときに使用します。

振り巾レバー：5~6

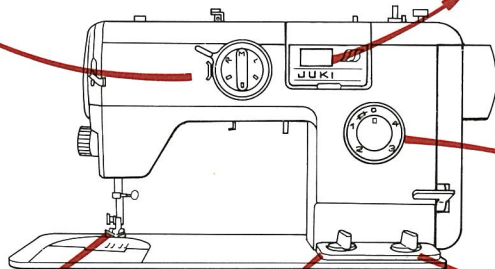
基線ダイヤル：R

模様カム：No.8

送りダイヤル：3~4

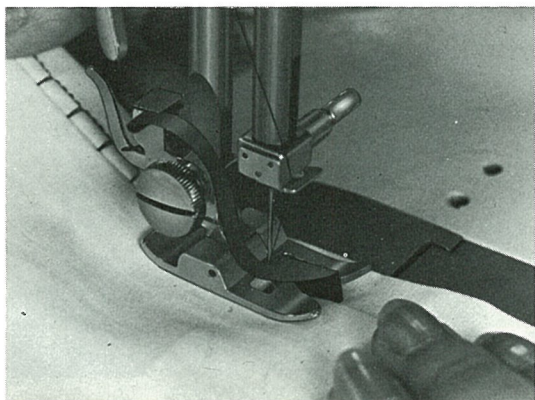
送り量は普通大きくします。

ジグザグ+
ブラインドステッチ案内



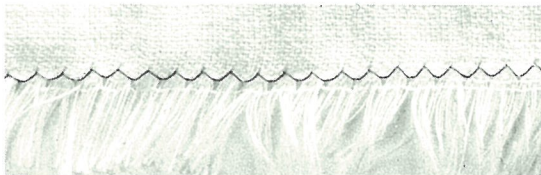
ドロップフィードレバー：{ 薄物... ▲ 普通... ▲ } ステッチレバー MWW

○ジグザグ押えとブラインドステッチ案内を組合わせて使います。ブラインドステッチは、棒定規と同様に押えのうしろのバネに差し込んで使います。

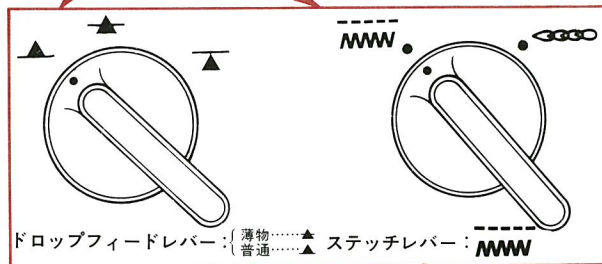
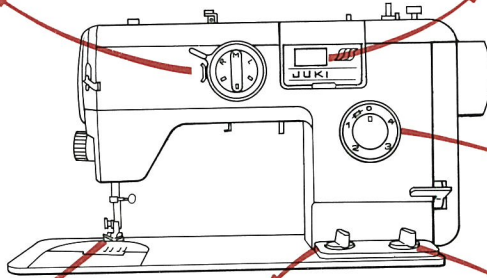
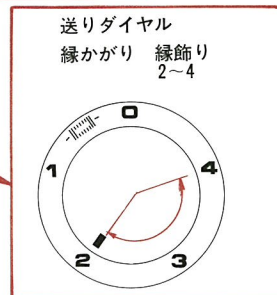
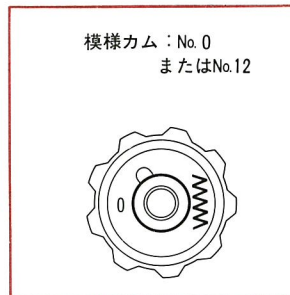
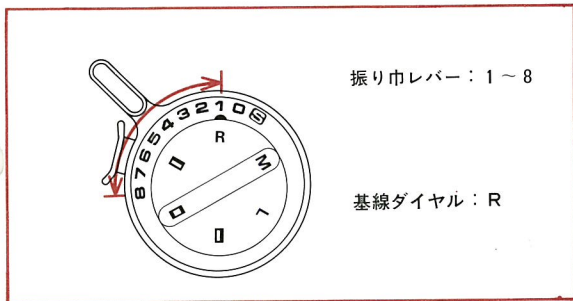


- 布を図のように三つ折にして、上の布の折り返し線に押えのガイドを合わせながら押えをおろします。次に針が一番左にきたとき、上の布にわずかにかかるように振り巾レバーで調整して位置をきめて振り巾ストッパーで固定します。
- 上の布の折り返し線を押えのガイドに当てながら縫いますとめくら縫いができます。

縁飾り



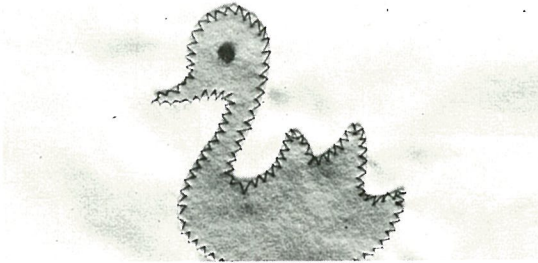
テーブル掛けや、マット等の縁の糸がぬけたり、みだれたりしないようには、縁をジグザグに縫って下さい



布地を違った色の糸で縫いますと美しく仕上がります。

アップリケ

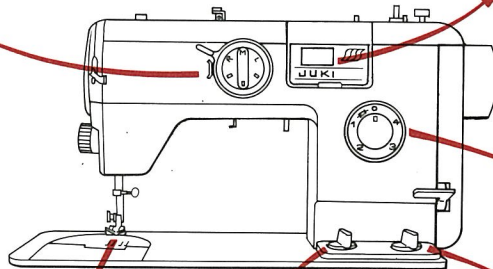
子供服、エプロン、手芸品などに使います。



振り巾レバー：1~8
○振り巾を一定の巾に固定します。

基線ダイヤル：R

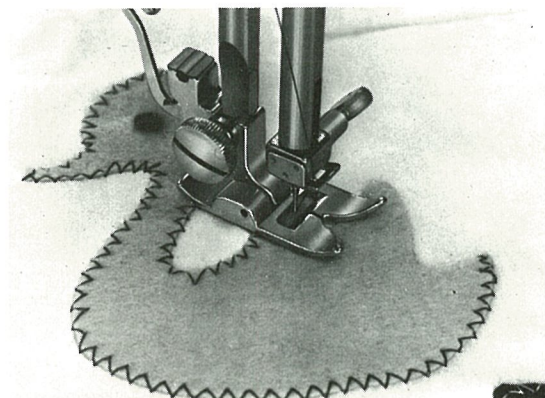
模様カム：No. 0



送りダイヤル：1~4

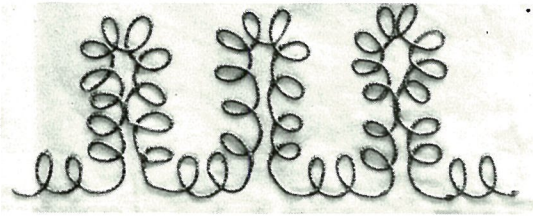
ジグザグ押え

ドロップフィードレバー：▲ ステッチレバー：MMM



- アップリケしようとする布の縁を、縁かがりと同じ要領でジグザグに縫いつけますが、アップリケする布は、チェーンステッチで止め縫いするかノリで貼りつけてずれないようにしておきますと、きれいに縫うことができます。
- 縫い始めと終りは振り巾レバーを0にしてドロップフィードレバーを▲に合わせ2~3針止め縫いをしますとほどけません。

ひもつけ(コード刺しゅう)

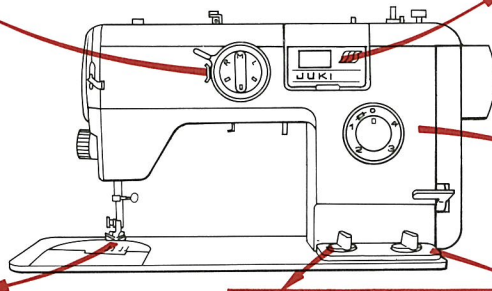


毛糸やリリアンなどを使ってお子さまの遊び着やエプロン等いろいろなものに縫いつけ模様ができます。またアップリケや刺しゅうに組み合わせても楽しいものができます。

振り巾レバー：1~4
ひもの太さに合わせて針の振り巾を調節します。
基線ダイヤル：M

模様カム：No.0

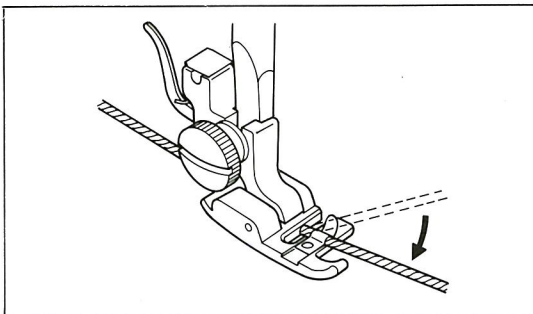
ひもつけ押え



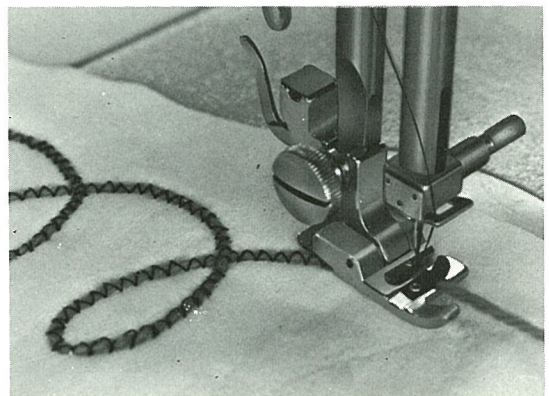
送りダイヤル：1~4

ドロップフィードレバー：▲ ステッチレバー：WWW

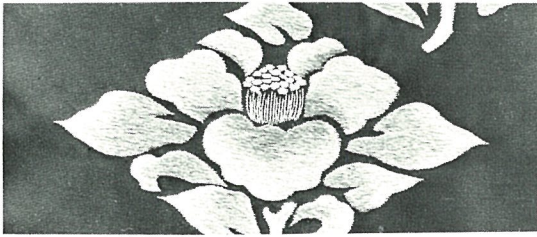
○ひもは図のようにバネの下に通します。



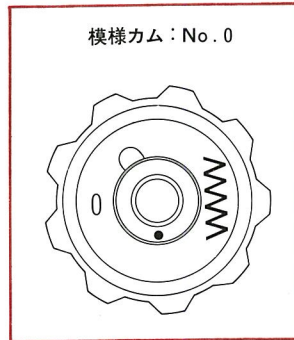
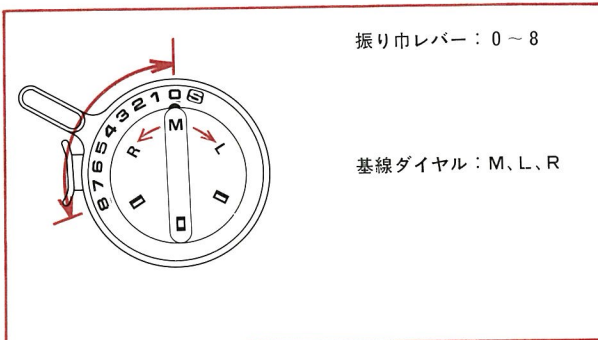
○曲線を縫うときは、布を手で回しながら縫って下さい。縫い目の長さを適当に荒くしたりひもと糸の色を変えたりしても面白い模様ができます。



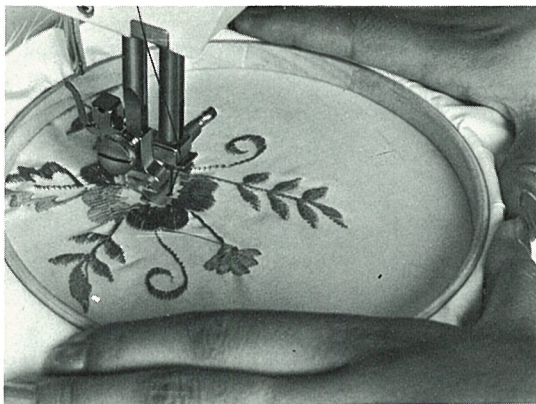
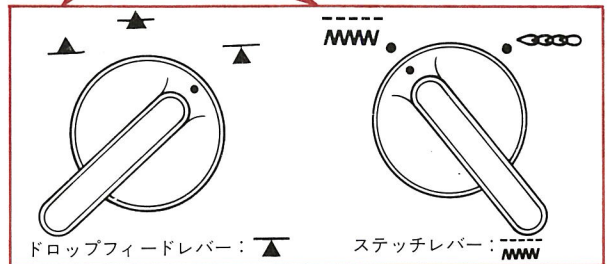
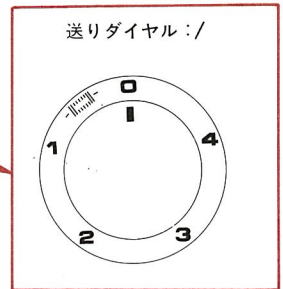
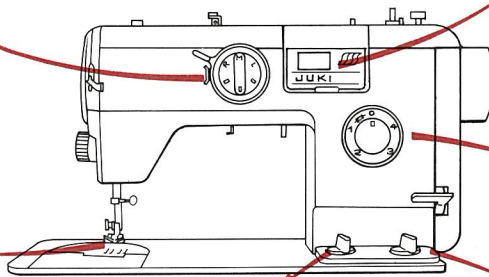
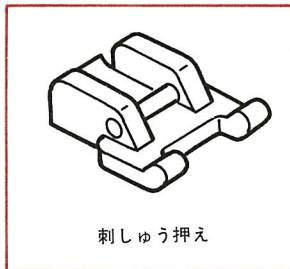
刺しゅう



婦人服、子供服、手芸品、室内装飾品などに使
います。



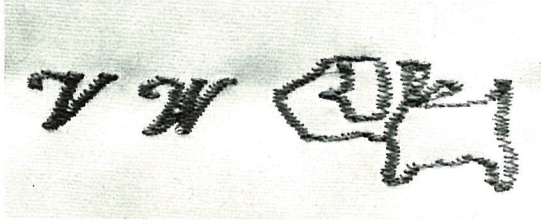
○ダーナー(押え調節)は圧力0(一ばん上)にします。



○きれいな刺しゅうに仕上げるには糸調子が
大切です。下糸が表に出ないように上糸は
できるだけ弱くして下さい。

○刺しゅうする縫い地を枠にはさんでできるだけ
強く張り、押えは刺しゅう押えを使います。
下絵にそって刺しゅうしますが刺しゅう枠を浮
かせないようにして下さい。

ネーム刺しゅう

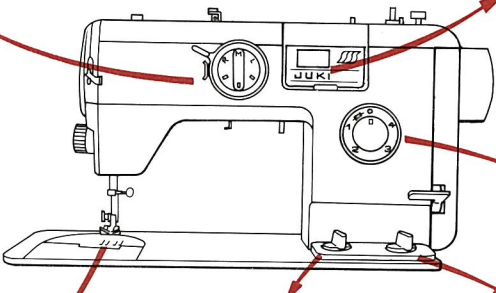


ネーム刺しゅうは、当社のマルチオートステッチャーをミシンに取りつけて、カムをセットするだけでアルファベット26文字はもちろんのこと、小犬、スワン、音符、汽車などの絵模様がきれいに縫えます。

振り巾レバー：1.5～2.5

基線ダイヤル：M

模様カム：No. 0



送りダイヤル：/



ドロップフィードレバー：▲ ステッチレバー：MMM

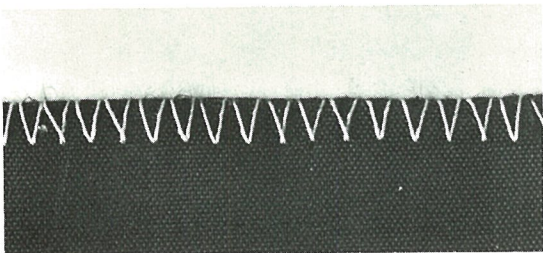
⊕マルチオートステッチャー

★縫い方
26文字のアルファベットの他、小犬、スワン、音符等の絵模様が縫えます。

★くわしくは、マルチオートステッチャーの使用説明書をごらん下さい。
マルチオートステッチャーは当社の各出張所及支店でお求め下さい。

重ね縫い	
ズラシ縫い	
キルティング刺しゅう	

裁ち目かがり



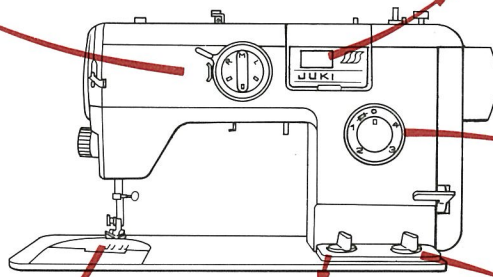
布地の裁ち目がほつれるのを防ぐために、裁ち目をかがるのに使います。
 スカート、ブラウス、ワンピース等の縫ち目かがりをはじめとして、装飾品や手芸品にも応用して下さい。

振り巾レバー：5~8

基線ダイヤル：R

模様カム：No. 0

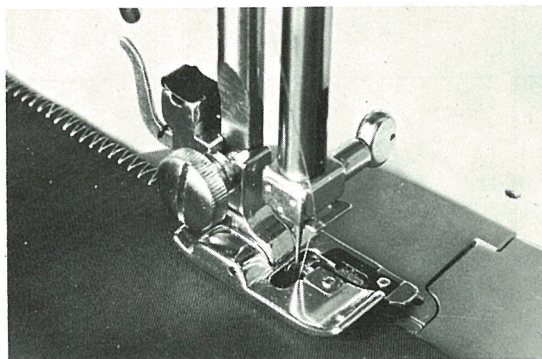
送りダイヤル：1~4



裁ち目かがり押え

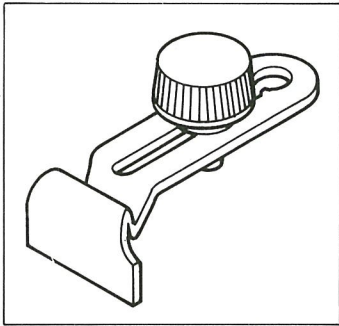
ドロップフィードレバー：▲

ステッチレバー：MWW

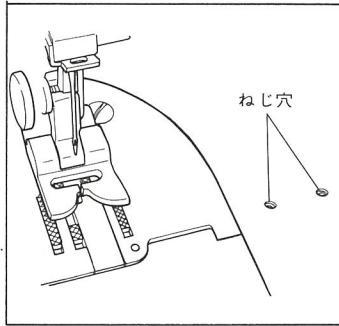


針が裁ち目をかろうとする布地の布端にすれすれにくるようにします。又縫糸の交点が布地の端から落ちないように、上糸調子を調節して下さい。

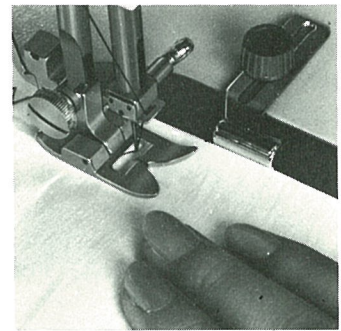
定規(ステッチ定規)の使い方



- 布の右はしを一定の間かくにあけて縫う場合に使います。
- 直線縫いばかりでなく、ジグザグ縫いにも利用出来ます。

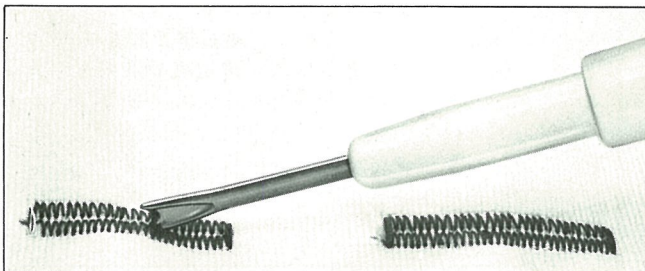


- 開閉板の右側のベッド面に2つのねじ穴があります。ここに希望する間かくをあけて、定規を止ねじで止めて下さい。

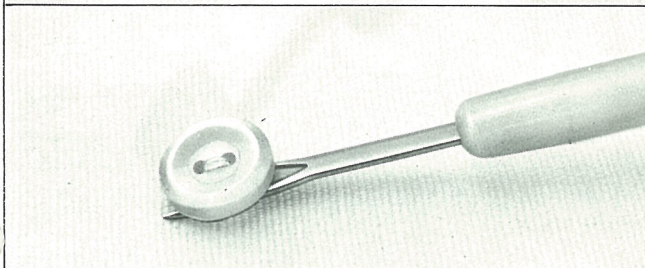


- 布地の端に定規が当たるようにして縫います。

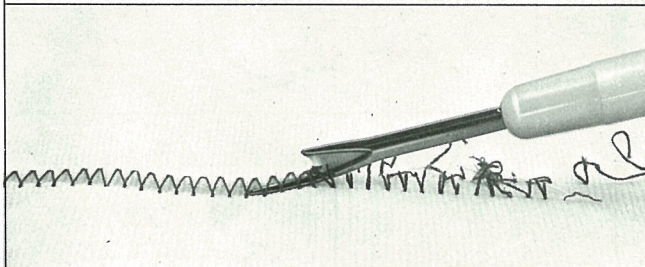
糸ほどき(リッパー)の使い方



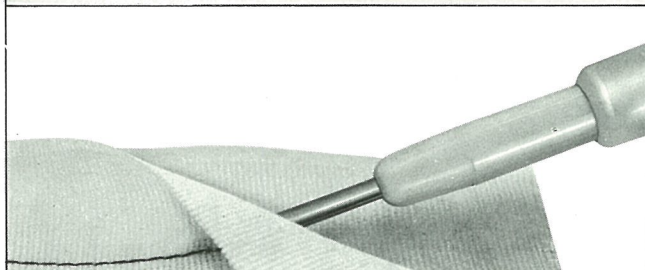
- ボタン穴を切り開く場合



- ボタンの糸を切る場合



- ジグザグの縫い目をほどく場合
(裏側からほどく)



- 合わせ縫い目をほどく場合

ニットの縫製について

伸縮性のあるニット（編物）の縫製には、丈夫でしかも伸び縮みのできる縫い方法が要求されます。当社のロックチェーンステッチは、その点丈夫でしかも伸縮自在ですから、ニットの縫製には最も適した縫い方といえます。

④準備するもの

- ①ナイロン透明糸（50～60番）又はウーリーナイロン（下糸）。ニット針。
- ②縫製用片面接着テープ（10mm巾）
- ③しつけ糸（しろも）
- ④スチームアイロン
- ⑤その他洋裁用具

④ミシンの調整（ロックチェーンステッチで縫います）

- 上糸にはナイロン透明糸の50～60番を使います。
- 振り巾レバーをSにします。
- 基線ダイヤルをMに合わせます。
- ステッチレバーを()に合わせます。
- 押えは直線縫い押えを使います。
- 模様カムはNo.0を使います。
- 送りダイヤルは4に合わせます。
- 針はニット針を使います。
- ドロップフィードレバーは▲にします。
- ダーナーは縫う物の厚さによって異なりますが普通の洋裁よりも強くします。
- ポピンケースに下糸を通し、10cm位引き出しておきます。

④ニットの仕上げ要領

- ①ミシン縫製する場合はあらかじめ縫い代分として0.5cm加えます。
※縫い代を割る場合は0.8～1cm加えます。
袖ぐり線、衿ぐり線には、縫い代はつきません。
- ②ニット地をミシン縫製する前の準備。
 - ①編み上がったニット地をそれぞれ製図寸法通りにアイロンで型をととのえます。
※はしの丸まりをおこすようにアイロンをかけます。
 - ②しつけをします。
しつけ糸はしろもを使用します。
2枚のニット地を中表にして模様合わせをしながら要所、要所を待ち針でとめます。ニット地のはしが丸まりやすいので一番外側の目の1目を2～3段おきに2本どりでしつけをします。
（図1）
※模様合わせの位置で針を直角に入れて模様がずれないようにします。
しつけが終了したらアイロン台にニット地を

ミシン縫製はこんな優れた点があります。

- ①切り換えやダーツの箇所がゴツゴツしません。
- ②体型にあった美しいラインが得られます。
- ③こった模様編みでも、たるみができず、すばらしい仕立てができます。
- ④早く、誰でも同じ仕上がりになります。
- ⑤どんな毛糸の段はぎにも理想的に仕上がります。

○糸調子

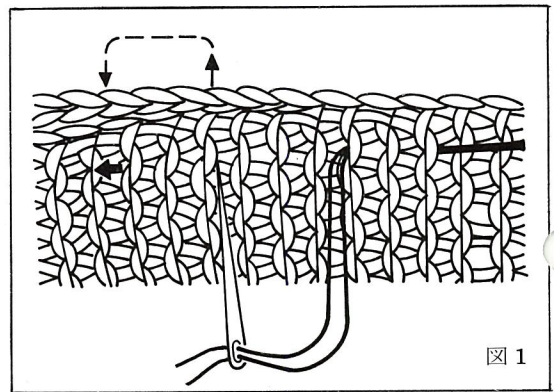
ナイロン透明糸を使用する場合は、目盛を3～5に合わせます。

○返し縫

返し縫をするときは、必ずステッチレバーを()に合せてから、返し縫をします。

○縫目をほどくときには、縫地裏の下糸を引き抜き、さらに最後の縫目をはさみで切り、糸をもちあげて引張れば、簡単にほどけます。

☆縫目をほどく場合は縫い終りからほどかないとほどけません。



のせて、要所、要所の寸法を確認するようにします。

例 身幅線から胴幅線の寸法
胴幅線から裾幅線の寸法等

④バイリールテープをはります。

ニット地は縫い伸びや、縫いづれ（模様ずれ）が起きやすいので伸び止めをするために、バイリールテープを貼りニット地を固定させます。

④接着テープの貼り方

接着テープは片面接着テープ10mm幅を使用します。(接着面は手ざわりのなめらかなほうです。)


ニット地のはしから縫い代分だけ内側にのせ要所、要所をまち針でとめてスチームアイロンで軽くおさえながら貼ります。裏側(反対側のニット地)も同様にして接着テープを貼りますとミシンの送りがスムーズになりきれいに仕上がります。(図2)模様合わせのときは、こまかく待ち針をとめてミシン縫いをします。(図3)

④ニットをミシンで縫うときの要領

①使用糸

ニットの仕上げに使うミシン糸は上糸は、ナイロン透明糸を使用します。ナイロン透明糸は伸縮性があり、ニットの伸縮性によくあって、どんな色や柄にも同化し外観をきれいに縫製することができます。

②縫い方

縫いはじめに下糸を10cm位長目にしておきます。ステッチレバーをセットして接着テープ上を縫わないようにします。縫い終わりましたらステッチレバーを()にもどして4~5針返し縫いをします。縫い目を縫い終りの方から軽くしごき、縫いはじめのミシン糸を結んでおきます。

※縫う時にニット地を引張ったりしますとニット地にゆがみができ、縫い目がきたなくなります。軽く押す程度にして送りはミシンにまかせるときれいに縫えます。

③仕上げ

縫い終わりましたら縫い目とバイリーンテープにスチームアイロンをかけるとテープがきれいにはがれニット地の仕上がりも美しくなります。

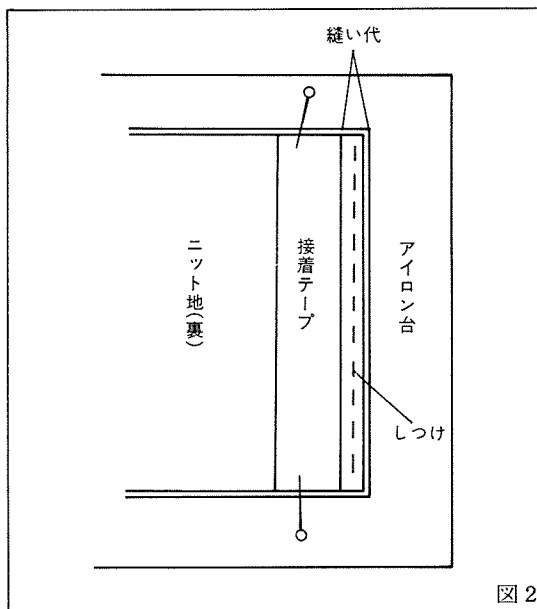


図2

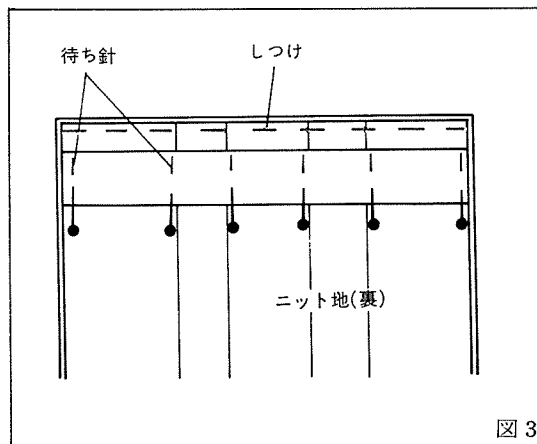
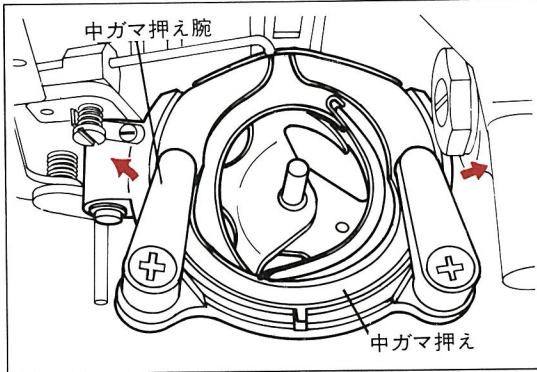


図3

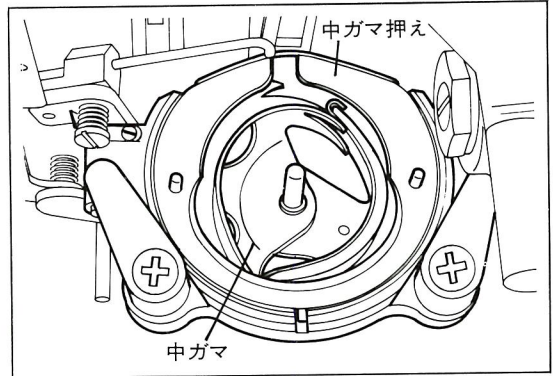
ミシンの手入れ

⊕カマの分解・組立

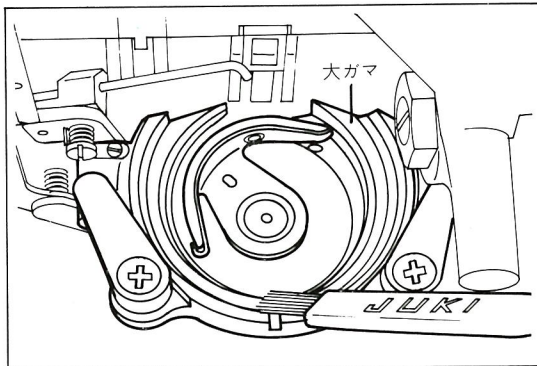
カマの中に糸くずが入ったり、ほこりがたまったときは、つぎの順序で分解して下さい。



1. 針棒を最高点に上げ、ミシン頭部を向う側に倒して、ボビンケースを取り出します。
2. 中ガマ押え腕を左右に開き、



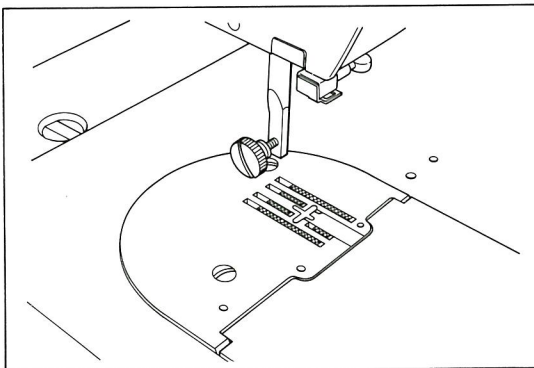
3. 中ガマ押えと中ガマを取り出します。



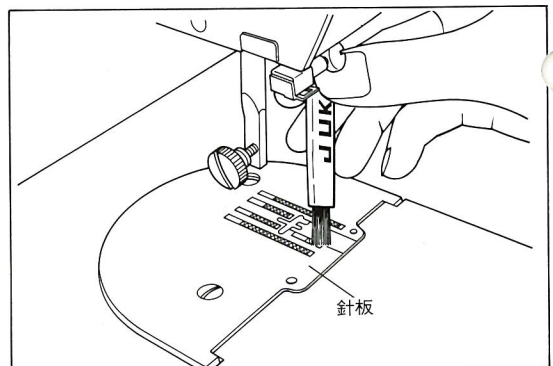
4. 大ガマの内部を掃除用ブラシできれいに掃除して、ミシン油を1～2滴して下さい。
★組立てるときは、分解した逆の順序で行います。
Ⓜ中ガマ押え腕はパチンとはまるところまで押して下さい。

⊕送り歯の掃除

針板と送り歯の間には、糸くずやホコリがたまりますので、時々掃除して下さい。



1. ハズミ車を回して、針棒を最高に上げ、針止めねじをゆるめて針を外します。
2. 押え止めねじをゆるめて、押えを外します。



3. 掃除用ブラシで糸くずやホコリをきれいに掃除します。

注油

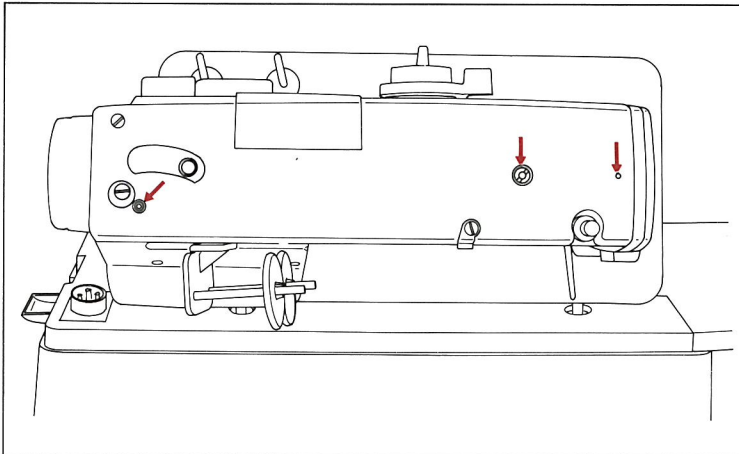
⊕頭部の注油

★ミシンの上手な使い方は、常に注油と掃除をすることです。

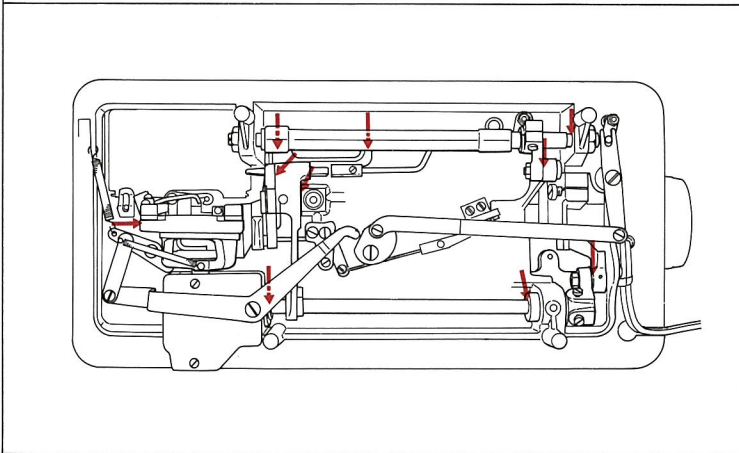
★油は良質のミシン油を、1週間に1度図の矢印の個所に1滴ずつさして下さい。

⊖食用油や悪質な油は、ミシンが重くなったり、摩滅や故障の原因となりますから、使用しないで下さい。

⊖ミシンの置き場所は、直射日光の当る所や、火気、湿気の強い場所はさけて下さい。

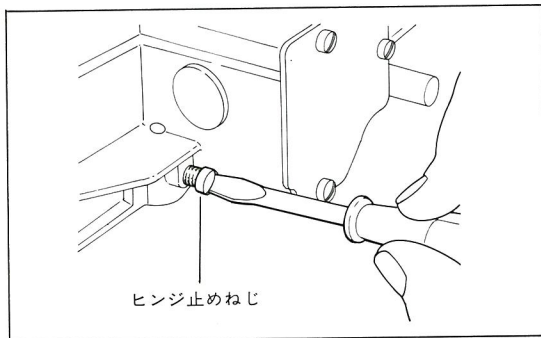


油穴に注油します。

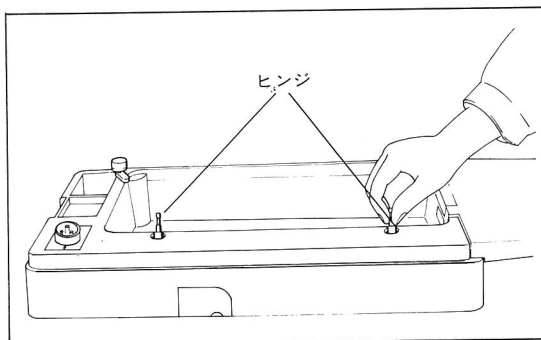


頭部を倒して矢印の個所に注油します。

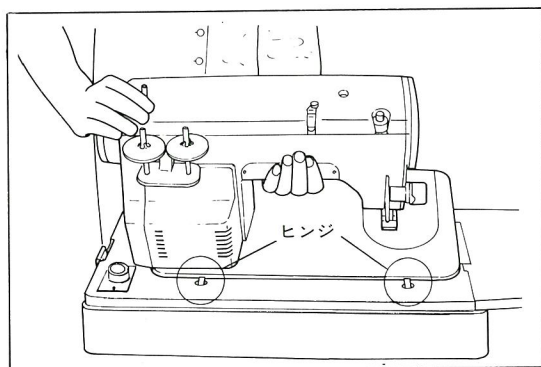
頭部の取り付け方



1. ベッドの裏面についているヒンジ止めねじをはずれない程度にゆるめます。



2. ポータブルケースの袖板を開き、2個のヒンジを立てて、輪ゴムなどをヒンジにかけておかないようにします。



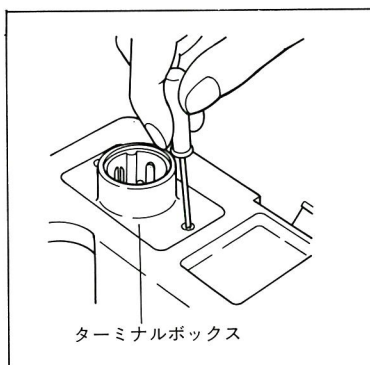
3. ミシン頭部を抱えて、ヒンジをベッドのヒンジ穴へさし込みます。

左右のヒンジがしっかり入ったのを確かめてから、ゆるめておいたヒンジ止めねじを強く締めつけます。

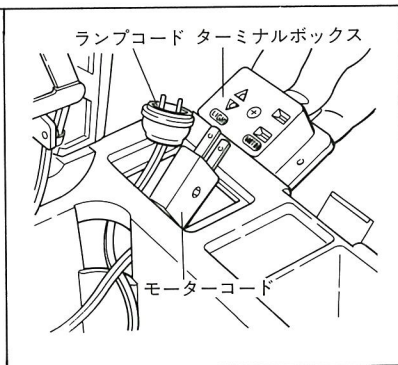
注 キャビネットに頭部を取りつける場合も同じです。その場合、天板を開いて下さい。

コードのつなぎ方

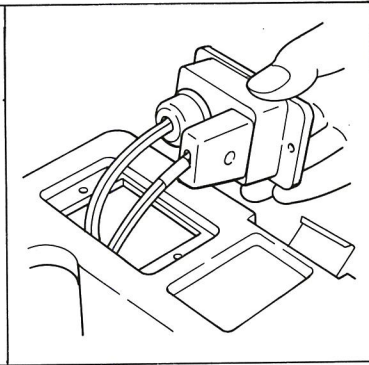
⊕ポータブルケース



1. 転倒防止体を引き出して、ミシンを倒して下さい。
2. ベース右後方にあるターミナルボックスの2本の止めねじをはずします。

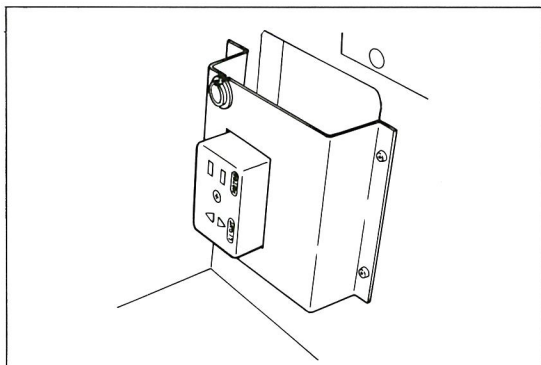


3. ターミナルボックスをとりはずします。
4. モーターから出ているモーターコードと、ミシンから出ているランプコードを、ベース右すみの穴からターミナルボックスを取り去った後の穴に引き出します。

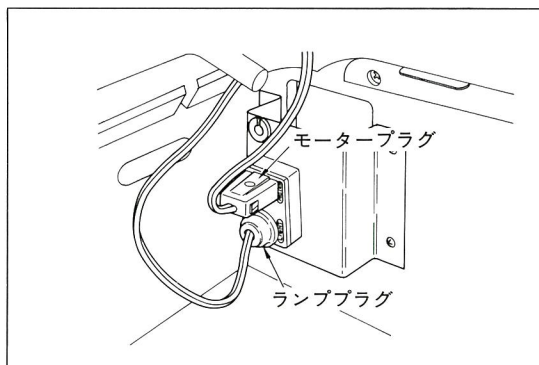


5. モーターコードは(MOTOR)にランプコードは(LIGHT)へそれぞれ差し込んで下さい。コードの接続が終わったら、ターミナルボックスをもとの位置に2本のねじで止めます。

⊕電動キャビネット



1. キャビネットの右内側にターミナルボックスがあります。

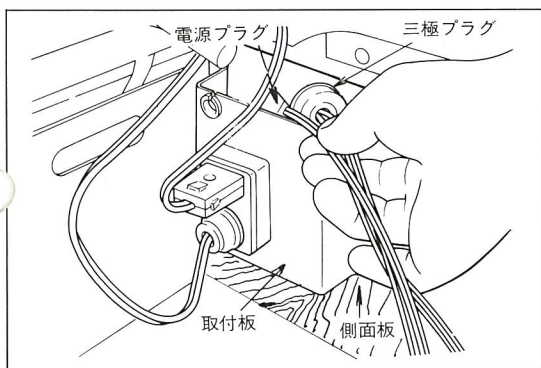
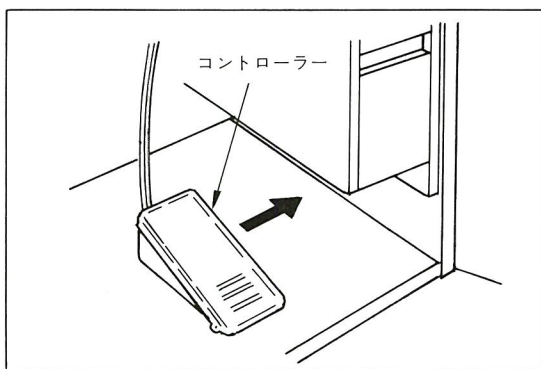


2. モーターから出ているコードは、(MOTOR)のところに、

3. ミシン頭部から出ているランプコードは、(LIGHT)のところに図のように差し込みます。

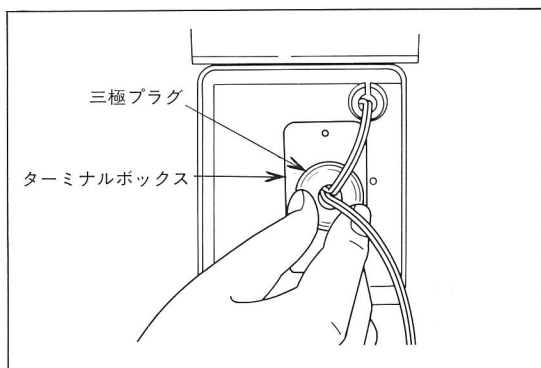
4. コードの接続が終了したら、コントローラーをキャビネットの内側に設置します。

★コントローラーを使用しない時は、引き出しの下側へ格納して下さい。



5. コードボックスのふたをあけて、コントローラーとつながっている、三極プラグ(丸いプラグ)と電源プラグを、ターミナルボックス取付板と側面板のすき間よりキャビネットの外側に出します。

☒三極プラグを先に出してから、電源プラグを出せば楽に外に出せます。



6. 外に出た三極プラグを、キャビネットの右外側にあるコンセントにさし込みます。もう1つの電源プラグは、電源にさし込んで下さい。

★ミシンを使用しないときは、コードを丸めてコードボックスに入れておきます。

★ミシンを使用しない時は、必ず電源さし込みプラグをぬいて下さい。

故障の原因と修理

故 障	原 因	修 理 の し か た
上糸の切れる場合	<ul style="list-style-type: none"> ○糸の掛け方が間違っているとき。 ○糸にこぶや結び目があるとき。 ○上糸の調子が強すぎる時。 ○針がまがっているか、針先の鈍いとき。 ○針の穴にキズがあったり、針の取り付け方が間違ったとき。 ○針と糸のふとさが調和しないとき。 	<p>糸を通す順序を調べて掛けなおして下さい。</p> <p>糸をとり換える。</p> <p>縫うものが変わりますと、今までよかった調子が強すぎることになる場合があります。</p> <p>5頁をごらん下さい。</p> <p>5頁をごらん下さい。</p> <p>針と糸と布地の関係の表をごらん下さい。(5頁)</p>
下糸の切れる場合	<ul style="list-style-type: none"> ○ボビンケースの糸の通し方が間違っているとき。 ○ボビンが不良でボビンケースの中で良く回らない時か又は糸を巻きすぎたとき。 ○ボビンケースの糸調子バネが摩滅し、みぞがいたんでいるとき。 	<p>9頁をごらん下さい。</p> <p>8頁をごらん下さい。</p> <p>糸調子バネを交換する。</p>
針が折れる場合	<ul style="list-style-type: none"> ○ほそい針で厚物を縫ったり、ほそい針にふとい糸を使用したとき。 ○針の取り付け方が間違っているとき、または、まがった針を使用したとき。 ○針止ネジの締め方が弱いとき。 	<p>5頁をごらん下さい。</p> <p>5頁をごらん下さい。</p> <p>針止めねじをドライバーで締める。</p>
布を送らない場合	<ul style="list-style-type: none"> ○送りの高さが悪いとき。 ○ベルトが伸びたとき。 ○ストップモーション大ネジがゆるんでいるとき。 ○針板と送りの間にホコリが着いているとき。 ○押えの圧力が弱いとき。 	<p>“ドロップフィードレバーの使い方”をごらん下さい。</p> <p>ベルトを切って短かくする。</p> <p>大ネジを締める。</p> <p>掃除用ブラシでホコリを取り除きます。</p> <p>ダーナーを押す。</p>
縫い目のとぶ場合	<ul style="list-style-type: none"> ○針がまがっていたり、針先が鈍いとき。 ○針棒に針を正しく取りつけていないとき。 ○針が糸にくらべてふとすぎるとき。 	<p>新しい針にかえて下さい。</p> <p>5頁をごらん下さい。</p> <p>5頁をごらん下さい。</p>
縫い目にしわが出来る場合	<ul style="list-style-type: none"> ○上糸、下糸の調子が強すぎる時。 ○薄物に対して縫い目があらずすぎるとき。 ○ボビンに下糸が平均に巻かれていないとき。 ○針先がいたんでいるとき。 	<p>15頁をごらん下さい。</p> <p>縫い目を細かくする。</p> <p>8頁をごらん下さい。</p> <p>針を取り換える。</p>
縫い目に糸の輪が出来る場合	<ul style="list-style-type: none"> ○上糸と下糸の調子が強すぎる時。 ○糸の品質が悪いとき。 	<p>上糸の調子が弱いとき、15頁をごらん下さい。</p> <p>糸をかえる。</p>
回転が重く音が高い時	<ul style="list-style-type: none"> ○油が切れているとき。 ○カマに糸くずが入っているとき。 ○ベルトの張りが強すぎる時。 ○油の質が悪いとき。 	<p>注油する。48頁をごらん下さい。</p> <p>カマを掃除する。</p> <p>ベルトの張りを弱くする。</p> <p>回転部にベンジンか揮発油を少量さして機械をはやくまわし、不良の油をよく洗い流して布きれでよくふき、良質のミシン油を少し多めにさして下さい。</p>

家庭製品販売部	郵便番号160	東京都新宿区歌舞伎町23 (ジューキミシンビル)	電話(203)8241(大代表)
札幌出張所	郵便番号062	札幌市中央区南5条東3丁目 (ジューキ札幌ビル)	(531)3661~3
東北出張所	郵便番号980	仙台市錦町1-1-2 (ジューキ仙台ビル)	(23)6554
東京統括部	郵便番号160	東京都新宿区歌舞伎町23 (ジューキミシンビル)	(203)8241(大代表)
名古屋出張所	郵便番号460	名古屋市中区新栄町8の1 (ジューキ名古屋ビル)	(936)2591~4
大阪出張所	郵便番号530	大阪市北区曽根崎町新地3丁目30の1	(344)3612~5
広島出張所	郵便番号730	広島市大洲町1の9の42	(81)9174(代)
福岡出張所	郵便番号812	福岡市博多区博多駅東1の9の4	(451)5630~2
熊本出張所	郵便番号860	熊本市南坪井町5の1 (池田ビル2階)	(53)3328

.....
 本 社・工 場・郵便番号182 東京都調布市国領町8丁目2番地~1 電話(480)1111(大代表)

